

2013（平成25）年度

# N I E 実 践 報 告 書

---



**Newspaper in Education**

群馬県N I E推進協議会

2013（平成25）年度

# N I E 実 践 報 告 書

---



**Newspaper in Education**

群馬県N I E推進協議会

# Contents

|                                   |                     |    |
|-----------------------------------|---------------------|----|
| ごあいさつ ……………                       | 群馬県NIE推進協議会会長 森 谷 健 |    |
| 「自分の考えを持ち、表現できる児童の育成」             |                     |    |
|                                   | 前橋市立原小学校 ……………      | 4  |
| 学びを広げ、深める新聞活用授業の充実                |                     |    |
| ～NIEを取り入れた「算数科授業」の実践研究を通して～       |                     |    |
|                                   | 伊勢崎市立豊受小学校 ……………    | 8  |
| 自分の考えを明確にもって表現できる児童の育成            |                     |    |
| ～新聞を活用した取り組み（2年目）～                |                     |    |
|                                   | 千代田町立東小学校 ……………     | 12 |
| 魅力的なNIEの発信                        |                     |    |
| —新聞に親しむ初年度の環境作りとその活用—             |                     |    |
|                                   | 高崎市立高松中学校 ……………     | 16 |
| 新聞に親しみ、社会の動きにさらに興味・関心をもつとともに、     |                     |    |
| 社会の出来事に対して自分なりの考えをもてるようになろう       |                     |    |
|                                   | 桐生市立広沢中学校 ……………     | 20 |
| NIEで言語能力の向上を図り、「社会で生きて働く力」を育む     |                     |    |
|                                   | 太田市立西中学校 ……………      | 24 |
| 道徳実践記録「原発問題を考える」                  |                     |    |
|                                   | 太田市立強戸中学校 ……………     | 28 |
| 新聞（情報）を活用しながら思考力・表現力の向上を図る取り組み    |                     |    |
|                                   | 昭和村立昭和中学校 ……………     | 32 |
| 「学ぶ意欲」向上のための新聞を活用した授業実践           |                     |    |
|                                   | 群馬県立館林商工高等学校 ……………  | 36 |
| 2013（平成25）年度 群馬法科ビジネス専門学校NIE実践報告書 |                     |    |
|                                   | 群馬法科ビジネス専門学校 ……………  | 40 |
| 保育士養成校におけるNIE実践                   |                     |    |
| 社会を支える保育者に必要な基礎的知識を養うために          |                     |    |
|                                   | 大泉保育福祉専門学校 ……………    | 44 |



## ごあいさつ

群馬県NIE推進協議会会長 **森谷 健**  
(群馬大学社会情報学部教授)

2013年度から会長を仰せ付かっております森谷でございます。“Newspaper in Education”とても魅力的な言葉に惹かれて、大役を務めさせていただくことになりました。よろしくお願いいたします。

13年度も、県内の小学校、中学校、そして専門学校から、実践指定校に名乗りを上げていただき、全部で11校で活発な取り組みがなされました。そして、前橋市原小学校、太田市強戸中学校、大泉保育福祉専門学校では、公開授業をしていただき、多くの関係者がNIEについて改めて考える機会となりました。

また、平成25年7月25日、26日に静岡市で開催された「第18回NIE全国大会」では、県内から4人の方々が研鑽を積み、今後の活動にその成果が反映されることが期待されるところであります。

本協議会の会合や公開授業、全国大会についての新聞報道などから、門外漢の私にもNIEについてのイメージが沸いてきました。「新聞で学ぶ」「新聞から学びはじめる」「新聞を学ぶ」このようなイメージです。新聞記事に書かれていることを学び、新聞記事を読むことをきっかけに更なる学びに広がっていく。新聞を目にすることで、新聞とは何かを考え、どのように新聞が作られるのかを考える。

新聞を通じて社会を知り、次の学びへの契機を得る。新聞の社会的機能をその限界をも含めて考察する。このようなことは、小学校・中学校だけでなく、高等教育においても実践されるべきことなのではないかと考えております。もっと考えれば、メディアを通じて社会を学び、メディアの社会的機能や効果・限界を知り、その上でメディアの活動を見る、このようなことは、社会の中で生き、社会を作っている「市民」が必要とすることなのではないかとも思い始めています。NIEのEは、学校教育の枠すら越えたEなのではないかと考えるとき、NIEのとても広く深い可能性、魅力を感じております。

私も日々授業を担当しております。繰り返してきた授業ではなく、新たな取り組みを、しかも長期間に亘って授業として実施する際、担当の先生は強いやりがいを感じると同時に、授業準備や学校内外の調整などが、重い負担として感じられていることと推察いたします。負担をものともせず作り上げられた成果が多くの方々に伝えられ、NIEが群馬の地に深く根ざし広く広がっていく光景を、みなさまと一緒に見てみたいと思っております。



# 「自分の考えを持ち、表現できる児童の育成」

前橋市立原小学校 教諭 遠藤 俊爾

## 1 実践の概要

N I E実践校として2年目の今年度は、新聞の効果的な活用場面や活用方法を工夫することにより、児童の発達に応じた「社会との出会い」をつくり、「自分の考えを持ち、表現できる児童の育成」を目指した。

授業実践は昨年度同様4年生の一学級を中心とし、実践する教科等は、国語、社会の他に総合的な学習の時間にも広げ、幅広く活用しようと試みた。

また、図書室での閲覧コーナーや職員室前や教室前のN I E掲示板設置、さらに今年度は一週間分の複数社の新聞を廊下にコーナーを設置し、他クラスの児童にも自由に閲覧できるように、興味関心を持たせる活動を行った。他学年でも、地方紙の掲示などにより啓発を行っている。

1月には、国語科の「ミニギャラリーの解説委員になろう」の実践をN I Eの公開授業として行った。また、2月には、学習参観でも、社会科で「わたしたちの群馬県」の授業を保護者に公開し、理解を求めた。

朝の会の日直のスピーチとして、新聞記事から気になったものを簡単に紹介し、その感想を書いて掲示する活動を継続して行ってきた。自主学习として家庭でも取り組む児童がいるなど、新聞がすぐ手に取れる環境があることで興味を持つ児童が増えており、実践の成果が現れてきている。



## 2 実践の内容

### 1 授業での実践

○4年生の取組

①新聞を活用したスピーチ はじめは、担任が学級活動や帰りの会の時間を利用して地域に関する記事や話題性のある記事を選んで紹介し、児童が感想を書くという活動を数回続け、新聞記事に関する興味を高めた。その後、朝の会で日直が自分で気に入った記事を紹介する活動とした。児童は紹介した記事に感想を加え、教室の後ろにあるN I E用の各自

の透明なファイルに入れ、誰にでも読めるようにした。  
②教科等における取組 国語科では、「夏休みの思い出」を紹介する新聞づくりや、「ミニギャラリーの解説委員」として、新聞記事の写真を使いフォトギャラリーの解説委員をする活動を行った。

社会科では、社会科見学の新聞づくりを行った。また、「わたしたちの群馬県」の学習では、自分の選んだテーマについて、新聞にまとめて発表する活動を行った。課題設定や記事の参考のために、廊下に郡市別のコーナーを設置し、まとめに利用することができた。



児童の作品から



〈学習参観の様子〉



〈原小ニュース掲示板〉



〈日直のスピーチ〉

## 2 掲示板

職員室前のN I E 掲示板の記事の更新を行い、新聞への関心を高めるようにした。また、4年の廊下には「原小ニュース」のコーナーを設け、先輩たちの活躍の記事も含め紹介した。

### 3 新聞コーナー

4年の廊下に、「新聞をくらべてみよう」というコーナーを設置し、一週間分の2～3紙が比較できるようにした。

その後、図書室に設置した一週間分2紙を配架できるラックに移し、自由に閲覧できるようにした。また、それ以前の新聞は、蔵書庫に収納し当面の間利用できるようにしている。



〈新聞をくらべてみよう〉

### 4 学習指導案

## 国語科 学習指導案

(N I E 指定授業公開)

平成26年1月16日第3校時

第4学年3組 指導者 遠藤 俊爾

I 単元名 絵から読み取ったことを伝えよう  
(題材 ミニギャラリーの解説委員になろう)

II 本時の学習(本時は8/9)

1 ねらい

新聞の写真を使って、解説のポイントを守りながら、ギャラリートークをすることができる。

2 準備・資料

教師・・・教科書・ワークシート・実物投影機

児童・・・教科書・台紙に貼った新聞の切り抜き・ワークシート

3 展開

| 学 習 活 動                | 時間 | 指導上の留意点・支援<br>評価項目(評価方法)  |
|------------------------|----|---|
| ○ギャラリートークの方法について、確認する。 | 5分 | ○前時までの活動の確認を通して、本時の課題を明確にし、活動に取り組みやすくする。                          |
| ○ペアでギャラリートークをする。       |    | ○解説のポイントを確認しながら、自分の解説と比べて聞くように助言する。<br>○まずは、互いの良い所を認め合い、まったく同じ解説で |

|   |            |   |
|---|------------|---|
| <p>○3～4人のグループで、ギャラリートークをする。</p> <p>○代表者が、全体に発表する。</p> | <p>35分</p> | <p>はなくてもかまわないことを確認し、より良くなるように解説文を修正させる。</p> <p>○進め方や時間を確認させ、円滑な進行ができるように助言する。</p> <p>○解説文を見なくても発表できる児童については、できるだけ写真や聞き手を見ながら解説するように助言する。</p> <p>○声の小さいあるいは自信のない児童には、解説文を見ながらも良いことを助言し、グループ全員に聞こえるようにする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◎写真を見て、感じたり考えたりしたことを理由を挙げて話したり、友達の考えと比べながら聞いたりして、ギャラリートークをしている。(ワークシート・話し合い・発表)【話すこと・聞くこと】</p> </div> <p>○他のグループの発表を聞くことで、いろいろな見方の違いなどを確認する。</p> |
| <p>○本時における自己の学習について振り返り、次時について確認する。</p>               | <p>5分</p>  | <p>○本時の学習について振り返り、自己評価を行い、次時の学習の意欲を持てるようにする。</p>  |

### 3 まとめと今後の課題

継続指定の2年目ということではあったが、初年度に実践していた児童とは異なる学級が対象となり、全てが一からのスタートということになった。ただし、同じ学年での実践だったために授業における新聞の扱い方については、ある程度の見通しを立てながら、計画的な活用を試みることもできた。

本校では、2年間にわたり、4年生の一学級を対象に実践を行ってきたが、昨年度の児童たちの新聞への興味や意識の高まりや当該学級以外の児童にも、新聞コーナー等により関心の広がりを感じることができた。また、家庭においても新聞を読み、自主的に記事を切り抜いて感想を書いてくる児童もおり、今後も家庭への啓発を続けたいと考えている。

「自分の考えを持ち、表現できる児童の育成」を主題として2年間にわたり取り組んできたが、自分の考えを持てるようになった児童が、より豊かに表現しながら伝達できるように取組を継続していきたい。

NIEの指定は終了となるが、今後も教科を問わず様々な場面で新聞が利用できないか検討し、積極的な活用を図っていきたい。

# 学びを広げ、深める新聞活用授業の充実

～NIEを取り入れた「算数科授業」の実践研究を通して～

伊勢崎市立豊受小学校 教諭 田沼 正一

## 1. 研究テーマ、実践の概要、学習指導案

### (1) 研究テーマ

本校は、日本新聞協会より平成24年度にNIE実践推進校の指定を受けて以来、新聞活用の授業実践を進めてきた。昨年度は、群馬県教育界の今日的課題となるベテラン教員の大量退職時代を迎えて、若手教員の育成研修を立ち上げ、研修内容にNIE研修を組み込んだ。若手育成研修にNIE研修を取り入れた実践例は全国的にほとんどなく、先駆的な実践になった。そして、若手教員のNIE実践研究では、各教科、領域で新聞活用の授業実践を核とし、児童の学びを広げ、深める学習の充実が図れた。

上記の取組を通して、国語科、社会科、理科、道徳、学級活動、総合的な学習の時間等での取組の有効性を実感できた。ところが、ほぼ毎日ある「算数科」の授業での実践事例はほとんど見られず、NIEが全教科、領域等で取り入れられることを示す意味でも、「算数科」の実践を研究していくことの必要性を実感した。そこで、6年算数科少人数教室を担当するNIE実践代表者の私自身が授業研究と授業公開を推進していくこととした。

### (2) 実践の概要

NIEの実践を次の2本柱として取り組んできた。

①：昨年度4月より立ち上げた若手育成研修（本県に正式採用されて3年目までの教師と県や市の臨時教師で経験が3年以内の教師を対象とする）にNIE研修を取り入れ、計画、実践を継続する。

②：NIE実践代表者である私自身が、6学年「算数科」の授業実践を、年間を見通して計画、実践を行う。

1学期は、新たな若手教員メンバーでNIEの基礎理解研修を行った。2学期には、NIEの「算数科」の授業を若手教員、全校教員に2回実施し、公開した。3学期には、NIEの「算数科」の授業について、全校に公開するとともに、上毛新聞社記者の取材も行われた。

| 月 日                 | NIE(教育に新聞を)研修と新聞活用授業実践の推進の概要  |
|---------------------|---|
| <b>平成25年度 1学期</b>   |   |
| 4月11日(木)            | ○NIE担当、全教師向けに啓発資料「NIE推進資料⑪号」(前年度の継続)を発行する。  |
| 4月23日(火)            | ○NIE担当、啓発資料「NIE推進資料⑫号」を発行する。  |
| 4月24日(水)            | ○NIE担当、啓発資料「NIE推進資料⑬号」を発行する。  |
| 5月24日(金)            | ○NIE担当、啓発資料「NIE推進資料⑭号」を発行する。  |
| 6月1日(土)             | ◇新聞7紙〔読売、毎日、朝日、産経、日本経済、東京、上毛〕の提供を受け始める。〔6月1日(土)から7月31日(水)の2か月、9月1日(日)から10月31日(木)の2か月の計、4か月。〕                        |
| 6月26日(水)            | ○NIE担当、啓発資料「NIE推進資料⑮号」を発行する。  |
| 6月28日(金)            | ○NIE担当、啓発資料「NIE推進資料⑯号」を発行する。  |
| 7月1日(月)             | ○NIE担当、啓発資料「NIE推進資料⑰号」を発行する。  |
| 7月12日(金)            | ◇日本新聞協会より「認定書」を頂き、正式に「NIE実践指定校」(継続校)として認定される。   |
| 7月13日(土)            | ◇読売新聞・毎日新聞・朝日新聞・産経新聞・上毛新聞の5紙に、豊受小学校が、「NIE実践認定校」(継続校)として紹介される。   |
| 7月18日(木)            | ●若手研修①：『はじめて学ぶ学校教育と新聞活用 考え方から実践方法までの基礎知識』(小原友行・高木まさき・平石隆敏編著、ミネルヴァ書房、2013年3月30日刊)研修資料として、若手教員で「新聞活用」授業実践のための基礎研修を行う。 |
| 7月25日(木)<br>～26日(金) | ●NIE担当、日本新聞協会主催第18回NIE全国大会静岡大会に参加する。<br>・場所…静岡県コンベンションアーツセンターグランシップ(静岡市)<br>・テーマ…『「学び」発見ーふじのくから『やさしいNIE』』           |
| <b>平成25年度 2学期</b>   |   |
| 8月7日(水)             | ◇上毛新聞に静岡でのNIE全国大会に参加した担当者の手記「すそ野を広げる活動挑戦」の記事が掲載される。   |
| 9月6日(金)             | ○NIE担当、啓発資料「NIE推進資料⑱号」を発行する。<br>・静岡でのNIE全国大会の紹介記事を集集する。   |
| 9月7日(土)             | ◇毎日新聞に「2013年度NIE認定実践校(2年連続)伊勢崎市立豊受小学校」との紹介記事で掲載される。   |
| 9月26日(木)            | ●若手研修②：「新聞活用」の日常授業実践を交流する。  |



|                   |  |
|-------------------|--|
| 10月 1日 (火)        | ○NIE担当、啓発資料「NIE推進資料⑱号」を発行する。                                     |
| 10月 9日 (水)        | ●NIE担当、若手教員、全校教員に、NIEを取り入れた算数科授業〔単元名「およその面積を求めよう」〕を公開する。         |
| 11月10日 (日)        | ○NIE担当、啓発資料「NIE推進資料20号」を発行する。                                    |
| 11月14日 (木)        | ○NIE担当、啓発資料「NIE推進資料21号」を発行する。                                    |
| 11月18日 (月)        | ○NIE担当、啓発資料「NIE推進資料22号」を発行する。                                    |
| 11月22日 (金)        | ●NIE担当、若手教員、全校教員に、NIEを取り入れた算数科授業〔単元名「資料の調べ方 資料の特ちょうを調べよう」〕を公開する。 |
| 11月27日 (水)        | ○NIE担当、啓発資料「NIE推進資料23号」を発行する。                                    |
| <b>平成25年度 3学期</b> |  |
| 1月 9日 (木)         | ●若手研修③：「新聞活用」の日常授業実践を交流する。                                       |
| 1月22日 (水)         | ●NIE担当、上毛新聞社記者にNIEを取り入れた算数科授業についてインタビュー取材を受ける。                   |
| 1月30日 (木)         | ●NIE担当、NIEを取り入れた算数科授業〔単元名「算数卒業旅行」〕を全校に公開し、上毛新聞社記者に取材を受ける。        |
| 2月 3日 (月)         | ◇上毛新聞に「新聞から学ぶ NIE実践校の取り組み(1)」に、「写真やグラフ 授業の教材に 伊勢崎豊受小」の見出しで紹介される。 |
| 3月17日 (月)         | ○NIE担当、啓発資料「NIE推進資料24号」を発行する。                                    |

### (3) 学習指導案

【6年：算数科 単元「資料の調べ方 資料の特ちょうを調べよう」〔いろいろなグラフ〕】

- 授業日・場所……平成25年11月22日(金) 第4校時・6年3組・算数少人数教室
- 指導者……6年算数少人数担当 (NIE担当・若手教員育成担当)
- 参観者……校長、教頭、5年算数少人数担当、若手育成研修研修員6人
- 本時の学習

#### 1 ねらい

- ・「新聞」という身のまわりにある素材から統計資料〔各種のグラフ〕を探して、その中から1つ選択した資料について説明する活動を通して、統計資料に関心を持ち、資料についての考えを深めることができる。

#### 2 展開

| 学 習 活 動   | 時 間   | 学 習 支 援 及 び 留 意 点  |
|---|-------|--|
| ① 新聞記事の統計資料〔各種のグラフ〕についての質問に答えることで、統計資料に対する関心・意欲を高める。  | 8 分   | ○ ①「マクドナルドの価格の地域差をグラフで示した新聞記事」②「スマートフォンのシェア争い状況を円グラフで示した新聞記事」を实物投影機で、スクリーンに映し、その記事について質問する。  |
| ② 本時の課題を捉える捉える。<br><b>新聞からグラフを探し、その中の1つを班の人達に説明しよう!</b>   | 3.2 分 | ○ 学習範囲のページ、本時の学習のめあてを板書する。   |
| ③ 前日に「日本経済新聞」〔1日分〕を調べて赤線で囲んだ全てのグラフの中から1つ選択する。   |       | ○ 「日本経済新聞」〔7紙中最もグラフが多くグラフが多く掲載されている新聞〕を1人1部ずつ(1日分)用意する。  |
| ④ 選択した1つのグラフを切り抜いて、ホワイトボードにセロテープで貼る。  |       | ○ 教師があらんじめグラフ調べをしておいた新聞を例示して、作業の進め方を理解させる。<br>○ 探したグラフの中から最も関心をもった新聞記事を切り抜かせ、ホワイトボードにセロテープではらせる。<br>・ホワイトボードの使い方を説明する。<br>・セロテープを各班1つずつ貸し出す。 |
| ⑤ 選んだグラフについて、ホワイトボードに、題名を書き、その記事の特徴について気づいたこと、考えたことを言葉でまとめる。  |       | ○ 記事の特徴に着目させて、気づいたことや考えたことを言葉でまとめるように指示する。   |
| ⑥ 班内で発表し合い、質疑を行う。<br><b>【予想される児童の反応】</b><br>A：関心の理由、グラフの特徴、やグラフの部分から分かることなどにふれている。→更に全体から読み取れる意味を考察させる。<br>B：関心したこと、グラフの特徴にふれている。→更にグラフから読み取れることを考察させる。 |       | ○ 自分で選んだグラフについて、関心をもったこと、面白いと思ったこと、グラフの特徴、グラフから読み取れることなどを発表させ、それについて、必ず1人1質問をさせ、話し合いをさせる。<br>・発表者の気づきを尊重して、質疑させる。                            |

|   |     |  |
|---|-----|--|
| <p><b>C：感心したこと、面白いと思ったについてふれている。→更にグラフの特徴を考察させる。</b></p> <p>⑦ 本時のまとめを行う。</p>                                  | 5 分 | <p>○ 各班の話し合いでよかったことを取り上げて賞賛し、生活の中にグラフが「生きて」存在することに気づかせる。</p> |
| <p>◎ 評価……自分の選んだグラフについて、関心をもったこと、面白いと思ったこと、グラフの特徴、グラフから読み取れること等を発表している。(数学的な考え方…評価方法：ホワイトボードの記述・発表内容・質疑内容)</p> |     |  |

## 2. 新聞の置き場所と整理の方法

| 新聞名    |              | 購読月 |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
|--------|--------------|-----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
|        |              | 4月  | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
| 読売新聞   | 【地元新聞店提供部数】  | 25  | 25 | 25 | 25 | 25 | 25 | 25  | 25  | 25  | 25 | 25 | 25 |
|        | 【日本新聞協会提供部数】 |     |    | 1  | 1  |    | 1  | 1   |     |     |    |    |    |
| 毎日新聞   | 【日本新聞協会提供部数】 |     |    | 1  | 1  |    | 1  | 1   |     |     |    |    |    |
| 朝日新聞   | 【日本新聞協会提供部数】 |     |    | 1  | 1  |    | 1  | 1   |     |     |    |    |    |
| 産経新聞   | 【日本新聞協会提供部数】 |     |    | 1  | 1  |    | 1  | 1   |     |     |    |    |    |
| 日本経済新聞 | 【日本新聞協会提供部数】 |     |    | 1  | 1  |    | 1  | 1   |     |     |    |    |    |
| 東京新聞   | 【日本新聞協会提供部数】 |     |    | 1  | 1  |    | 1  | 1   |     |     |    |    |    |
| 上毛新聞   | 【日本新聞協会提供部数】 |     |    | 1  | 1  |    | 1  | 1   |     |     |    |    |    |

- ◆ 7紙受給は、前年度と異なり、1学期2か月、2学期2か月とした。
- ◆ 地元新聞店提供の「読売新聞」は、全23学級に毎朝配布している。
- ◆ 日本新聞協会提供の7紙は、会議室に「各紙閲覧棚」を設け、自由に閲覧できるようにしている。



【会議室の各紙閲覧棚】

## 3. 実践の内容

### (1) NIE実践推進の環境づくりについて

#### ◆ 全校のNIE掲示コーナーの運営

職員室廊下壁面（本校では、最も目につく所）に、「NIE（教育に新聞を）コーナー」を設置して、児童、教職員へNIEの最新情報を適宜発信し、実践推進を図った。



【NIE（教育に新聞を）コーナー】 【「東京オリンピック決定」特集】 【「楽天田中将大投手24連勝」特集】

#### ◆ タイムリーな特集の掲示

##### ○ 「東京オリンピック」特集（平成25年9月8日（日）掲示）

- ◎ 「2020年東京五輪 1964年以来56年ぶり」……「読売新聞」
- ◎ 「2020年五輪 東京に再び聖火 56年ぶり2都市に圧勝」……「上毛新聞」
- ※ 「TOKYO」と開催決定報告がなされた瞬間の日本五輪招致委員会委員の歓喜の場面が掲載された2紙の写真を比較できるようにした。一方は、全景を捉えたルーズの写真、もう一方は、委員の表情が捉えられるアップの写真で、一目で違いが気づけるように掲示した。

##### ○ 「楽天田中将大投手24連勝」特集（平成25年10月9日（水）掲示）

- ◎ 「田中24勝0敗 無敗最多勝 史上初 序盤2失点打線が援護」……「読売新聞」
- ◎ 「田中今季24勝0敗1S 初の無敗最多勝」……「朝日新聞」
- ◎ 「田中24連勝締め 史上初0敗最多勝へ 直球勝負で力見せつけ」……「毎日新聞」
- ◎ 「田中 開幕24連勝 最後の先発7回2失点」……「産経新聞」
- ◎ 「田中24勝 無敗で最多勝 史上初の快挙 「集中の積み重ね」」……「日本経済新聞」
- ◎ 「田中 開幕24連勝 楽天7-3オリックス」……「東京新聞」
- ◎ 「田中24連勝圧巻 史上初無敗の最多勝投手」……「上毛新聞」
- ※ 7紙における「田中将大投手の24連勝」の取り上げ方に注目させる掲示を行った。「NIEの豆知識」との表示し、その中に「見出しのつけ方は?」「写真の撮り方と場面の違いは?」「記事の扱い面積の違いは?」と記載し、各紙の違いに気づかせるように掲示した。

### (2) NIEを取り入れた「算数科授業」の実践研究について

#### ◆ NIEを取り入れた算数科授業 ①

- 単元名「およその面積を求めよう」の授業実践（平成25年10月9日（水）公開）



【宮城県の施設バルーン式コンサートホール「アーク・ノヴァ」の写真でクイズ】  
◎朝日新聞平成25年10月7日記事



【2020年東京オリンピック・スタジアム構想図でクイズ】  
◎読売新聞平成25年9月10日記事



【日本各地の大きな施設である競技場・野球場などの面積を求めるために知恵を出し合っの意見交流】



【班で話し合い考えを出し合う】



【ホワイトボードに解き方の考えを書き出す】



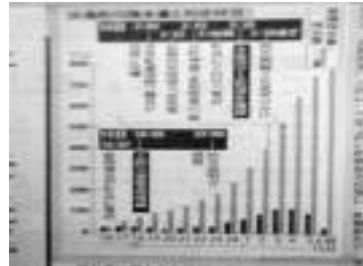
【同左】

◆NIEを取り入れた算数科授業 ②

○単元名「資料の調べ方 資料の特ちょうを調べよう」の授業実践（平成25年11月22日（金）公開）  
【授業の導入で活用したグラフの新聞記事】



【ビックマックの価格地域差のグラフ】  
◎朝日新聞平成25年9月11日記事



【大島町の降水量と対応状況の柱状グラフ】  
◎毎日新聞平成25年10月18日記事



【スマートフォンのシェア争い状況の円グラフ】  
◎朝日新聞平成25年9月12日記事

◆NIEを取り入れた算数科授業 ③

○単元名「算数卒業旅行」の授業実践（平成26年1月30日（木）公開）



【6年間の算数科のまとめ、算数学習思い出を語り、卒業研究を見通す】



【新聞記事に関するクイズ】  
◎読売新聞平成26年1月9日記事



【新聞記事についての感念交流】  
◎同左の記事

4. 実践の感想と今後の課題

(1) NIE授業の実践研究後の児童の感想について

NIEの授業実践研究を行ってきて寄せられた児童の主な感想は、以下の通りである。

- ◆6年男子 … 「算数で新聞に載った写真やグラフを使うことで関心や集中力が高まりました。」
- ◆6年男子 … 「初めて経済新聞を読み、企業の株価や業績のグラフの読み取りが面白かったです。」
- ◆6年女子 … 「先生が新聞記事を教材に使ってくれて、より深く考える学習が進められました。」
- ◆6年女子 … 「新聞記事のグラフ調べから、算数が生活に息づいていることが分かりました。」
- ◆6年女子 … 「NIEの授業によって、世の中が分かり新聞に慣れ親しむことができました。」

感想から新聞活用の算数科授業の実践は、児童の興味・関心を高め、資料となる記事の読み取りで思考を深め、併せて世の中の動きを学ぶことが分かった。研究のねらいである「学びを広げ、深める学習指導に有効である」と考える。

(2) 今後の課題について

今年度の実践研究は、これまであまり試みられてこなかった新聞活用の「算数科」の実践研究であった。実践授業を3回実施し、公開してきたが、教材として扱いやすかった記事は、図形や統計資料に関する単元のものであった。さらに単元を変えて、学びを広げ、考えを深める児童の育成に寄与していきたい。



# 自分の考えを明確にもって表現できる児童の育成

～新聞を活用した取り組み（2年目）～

千代田町立東小学校 神林 美紀

## 1 実践の概要

### (1) 新聞に慣れ親しむ取り組み

- ・環境作り テーマを決めて新聞記事を切り抜き、掲示する。
- ・各クラスの取り組みの共有化

### (2) 新聞を活用した授業実践

| 学 年 | 教科等      | 主な授業実践の単元及び内容  |
|-----|----------|--|
| 1年  | 国語       | ○「カタカナをみつけよう」  |
| 2年  | 生活科      | ○「もっとなかよし町たんけん」  |
| 3年  | 国語       | ○「新聞記事に見出しをつけよう」<br>○「新聞記事を読んで俳句や短歌を作ろう」                               |
| 4年  | 国語       | ○「新聞日記を作ろう」  |
| 5年  | 社会<br>理科 | ○「わたしたちのくらしと情報」<br>情報はどのように伝えられるの<br>○「台風26号のニュース」と「天気の変化」を<br>関連付けた学習 |
| 6年  | 国語       | ○「意見文を書こう」<br>○読んで推薦文を書こう「やなまし」  |

## 2 新聞の置き場所と整理の方法

図書室前に、NIEコーナーを設けた。毎朝、図書委員が職員玄関前に届いている新聞（7紙4ヶ月分）を取りに行き、ラックに収めることとした。新聞は誰でも自由に閲覧してよいこと、前日までの新聞は自由に切り抜きしてよいことを共通理解し、活用した。



〈図書室前の新聞ラック〉



〈NIEコーナーの約束〉

### 3 実践の内容

#### (1)新聞記事を使った国語授業の実践(4年特設単元)


①指導計画 全3時間 本時は2時間目

②本時の学習

1)ねらい 新聞を読んで分かったことをまとめ、記事に対する自分の感想を発表し合う。

2)準備 新聞記事 児童用ワークシート

3)展開

| 学 習 活 動                                       | 時間  | 指導上の留意点   |
|---|-----|---|
| 1 前時の学習をふり返し、「新聞日記」のやり方を確認する。                 | 15分 | <ul style="list-style-type: none"> <li>新聞から切り取るのは、見出しと写真のみであること、記事の部分は5W1H(いつ・どこで・だれが・何を・どうした)を意識してまとめること、最後に記事に対する自分の感想を書き込むことを確認する。</li> <li>2つ以上の日記を書くことを目標に、新聞日記に取り組むよう伝える。</li> </ul>  |
| 2 本時の課題を知る。                                   |     |   |
| 3 新聞記事を選び、新聞日記を書く。                            | 25分 | <ul style="list-style-type: none"> <li>多くの新聞記事から学習材を選べるよう、1ヶ月分の新聞を用意する。</li> <li>新聞社によって取り扱いが違うことに気づけるよう、7社の新聞を用意する。</li> <li>記事内容が分からない場合は、友だちと相談してよいこと、または教師に尋ねてもよいことを告げる。</li> <li>なぜ、その記事を選んだのか、理由を明らかにして書くよう助言する。</li> <li>理由が書けた児童に発表するよう促す。</li> </ul> |
| 4 完成した新聞日記を読み合う。                              |     |   |
| 5 本時のまとめをする。<br>本時で分かったこと、なるほどと思ったことを文章にまとめる。 | 5分  | <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の興味関心をもった記事を選択すること、見出しと写真をよく見ることを確認する。</li> <li>友だちのまとめ方を参考に、次時も取り組むことを告げる。</li> </ul>   |

### 児童の感想

- ・ ふだん新聞はテレビらんしか見ないが、よく読んでみると意外におもしろいことがわかった。
- ・ 新聞記事をじっくり読める機会があって、楽しかった。

## (2)各学年の授業実践

### 〈1年〉

○国語 「かたかなをみつけよう」実施時期：10月

新聞紙の中にあるカタカナみつけを行った。カタカナを学習した後だったため、意欲的にカタカナを見つけていた。まだ分からないカタカナの言葉を見つけると、「これはどういう意味？」と友だちに聞いたり、相談したりしながら、取り組めた。

### 〈2年〉

○生活科 「もっとなかよし町たんけん」実施時期：11月

「町たんけん」の学習の一環として、総合体育館に見学に行った。まとめの学習として、総合体育館について新しく知ったことについて、模造紙をつかった新聞作りを行った。「見出しになるメインの記事」「絵（写真の代わり）」「クイズ」の3項目を実際の新見ながら学習し、構成を考えた。クラスを3班（5～6人）に分け、分担を決め、内容を話し合って書くよう指導した。相手意識をもって、読む人が見やすいように、ていねいに字を書いたり、記事の内容を分かりやすく書いたりすることができた。

### 〈3年〉

○国語 「新聞記事に見出しを付ける」実施時期：9月

記事の内容を理解して内容に沿って短くまとめる力（要約力）をつけるために、新聞記事に見出しを付ける学習を行った。児童は興味をもって、書かれている事実の中から適切に語句を選び、見出しに使うことができた。

○国語 「俳句や短歌作り」実施時期10月

記事に取り上げられた事柄を題材にして、思いを表現する力をつけるために、俳句や短歌を作る学習を行った。記事を題材にしているので、話題に上がっている言葉をキーワードにして、俳句や短歌を作ることができた。また、歌を作る学習を通して、催しや自然から季節感を味わい、楽しんでいた。

### 〈5年〉

○社会 「情報はどのように伝えられるの」実施時期：1月

新聞について教科書で基本事項をおさえたあと、グループ学習を行った。一つのグループに、同じ日付の新聞を複数用意し、同じ日の新聞の一面でも取り上げる内容が違っていたり、同じ内容でも扱い方が違っていたりすることを確認した。実物を比較することで、具体的な例をもとに、違いを説明することができた。

教科書の記載からは分からなかった、地方紙と全国紙の違いについても、実際に読み比べることで、理解が深まった。

○理科 「台風26号のニュースから」：10月

1学期末に学習した「台風接近」と「天気の変化」から、「台風26号に関連したニュースに関心を持つ児童が多かったため、理科の学習の一環として取り上げた。今年度は台風をはじめ、竜巻・豪雨などいろいろな自然災害があったので、この報道を伝え、実を守る術として緊急避難や持ち出す物品、連絡先等についても話し合うことができた。

#### 〈6年〉

○国語 「意見文を書く学習」：通年

新聞記事を読んで、三段落構成の意見文を書く学習を行った。1段落目に内容を要約したもの、2段落目に新聞記事からの引用、3段落目に記事の内容から考えた自分の意見を書くこととした。習熟してきたところで、段落の順番を変えて、頭括型・双括型・尾括型の書き方を学ばせた。

○国語 「読んで推薦文を書こう」：実施時期11月

①作者宮沢賢治について、新聞記事を切り抜き、その生い立ちを調べた。

②新聞社主催「どくしょ甲子園」の記事を参考に、東小版「どくしょぼ一ど」を作成した。「どくしょぼ一ど」とは、宮沢賢治作品の中から一作品を選び、題名・推薦文・キャッチコピー・気になる表現の引用の4点を1枚の紙にまとめたものである。

#### (3)環境作り

日常的に新聞記事を目にすることで新聞に慣れ親しむことができるよう、本校加藤校長を中心に、新聞記事の切り抜きを行い、テーマごとに時系列に沿って掲示するコーナーを設けた。今年度掲示したテーマは、「富士山世界遺産登録」「夏の甲子園」等であった。同じ内容の出来事でも新聞によって扱い方や視点が違うこと、カラー写真で見るとより一層記事の内容の理解がすすむことを、実感できた。



〈新聞記事をもとにした校長講話を朝会で全校児童が聞いている様子〉

#### 4 実践の感想と今後の課題

NIEの取り組みが2年目になり、「新聞は大人が読むもの」といった児童の先入観が薄れ、身近な存在になってきた。分からない言葉や文字があっても、読み飛ばして記事の内容を推測できるようになった児童も多くいた。自分の身近な出来事だけでなく、日本や世界の各地の出来事を知ったり、授業で学習したことを活用する内容の取り組みも多く見られるようになってきた。今後も継続して取り組んでいきたい。

# 魅力的なNIEの発信

—新聞に親しむ初年度の環境作りとその活用—

高崎市立高松中学校 小林久美子

## 1. テーマ設定の理由

新聞が有効な教材であることは理解しているが自分自身が新聞に目を通すこと時間を生み出すことが困難な教師と、情報源としての新聞に接することが少なくなっている生徒に、新聞そのものに興味・関心をもたせるための環境作りが、NIE実践指定校新規校（1年目）として目指すところであろうと考え、設定した。

## 2. 実践の概要

「新聞を教育に」取り入れていく工夫について行った試みは主に以下の4点である。

- (1) 新聞を手にとって読む環境整備づくり。
- (2) 授業、学級、委員会、行事等における新聞を活用する試み。
- (3) 図書委員会等と連携し、場所・空間・管理まで含めた「NIE環境」づくり。
- (4) 資料保管、調べ学習、作品掲示等、活動と表現の場としての図書館の積極的活用。

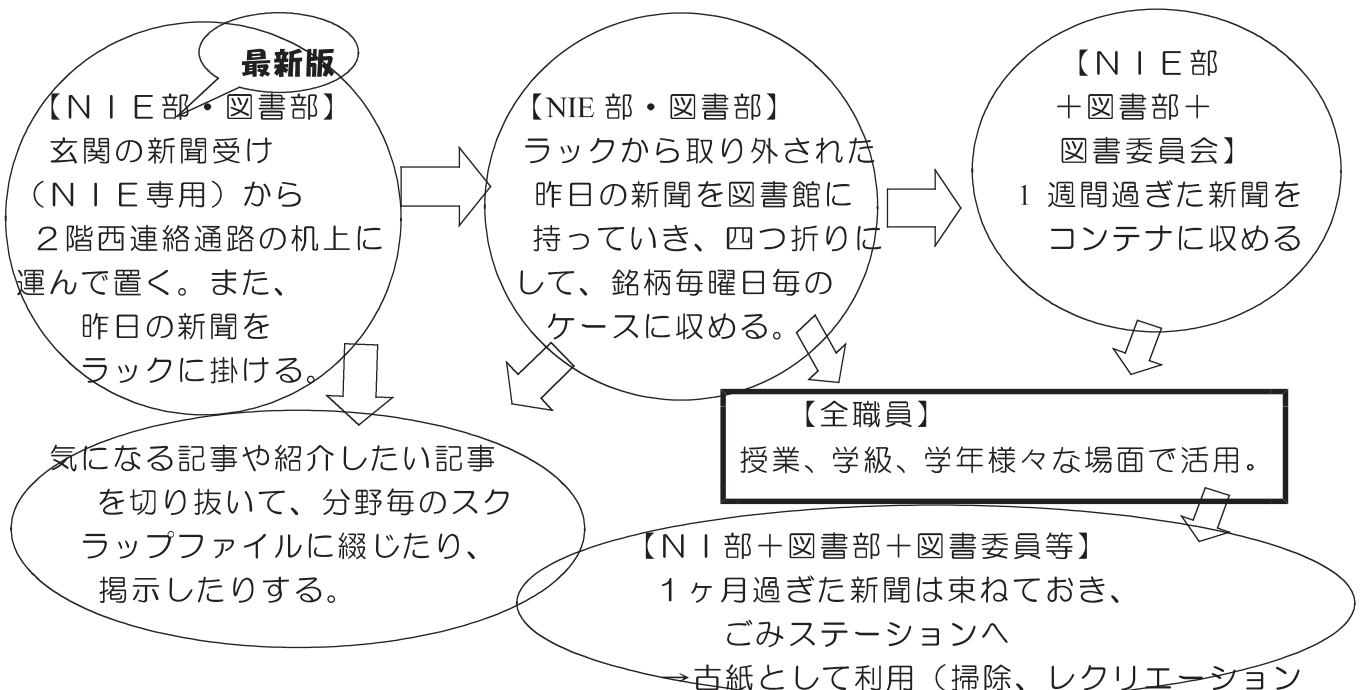
## 3. 新聞の置き場と閲覧・管理について

### (1) 購読計画

9月1日（日）～12月27日（金） 朝日・読賣・毎日・産経・東京・日本経済・上毛各1部（但し、10月以降、読賣・日経については夕刊も配達）

### (2) 整頓についての基本的な流れ

|             |  |
|-------------|--|
| ①当日の新聞(最新版) | 2階西連絡通路の机の上に平置き（新聞クリップ使用）                        |
| ②昨日の新聞      | 2階西連絡通路の新聞ラックに設置                                 |
| ③一昨日以前の新聞   | 図書館に銘柄毎・曜日毎のケース（小学館古典文学全集：廃棄本のハードケースを使用）に四つ折りで保管 |
| ④③より以前の新聞   | 図書館に銘柄毎に四つ折りで保管（コンテナ）                            |





#### 4. NIE 周知のために

##### ○全校生徒へのインフォメーション

- ・新聞に関するアンケートの実施
- ・「NIEコーナー」掲示版：西2階連絡通路壁面、図書館外掲示板、図書館内、階段の踊り場の掲示板等
- ・お便り：図書館便り、学校便り、学年便り、学校ホームページ等
- ・校内放送：お昼の放送（図書委員会より）
- ・各授業で、学級で、集会で



##### ○職員のための資料（多数の授業実践や、ワークシートを紹介）

- ・職員室南側棚に「NIE実践資料コーナー」を設置

##### ○新聞に親しませる（読ませる）「魅力ある図書館」のためのレイアウト替えこれまでデッドスペースだった西側の掲示板（+黒板）の有効活用



## 5. 授業等実践例

### (1) 1学年国語

○詩の学習に於いて、言葉から受けるイメージにマッチしたものを新聞の中から切り取り、詩と共にコラージュ作品として仕上げさせた。



### (2) 2学年国語

○1学年時から、授業の初めの5分程度を「天声人語ノート」を書く時間に充て、新聞そのものや社会的な話題や、文章の構成、語彙への関心を高めさせている。

○東京オリンピックの開催決定についての記事を読み、自分の考えをはがき新聞にまとめた後→クラス作品で一枚の壁新聞を作った。

○「走れメロス」の「その後」を「シラクス新聞」と題してはがき新聞にまとめた。

### (3) 3学年社会

新聞の記事は、新聞社によってあつかう記事や内容、論じ方に違いが見られたため、複数の新聞を読み比べ、メディアリテラシー（マスメディアから発信される情報を様々な角度から批判的に読み取る力のを身につける活動）に取り組ませた。

授業では、班別で全員が複数の新聞を読み、同じ内容の記事であっても新聞社によって伝え方の違いや内容の違いがあることを知ることができた。また、社説には新聞社の考え方や提言が述べられ、世論形成に大きな影響を与えていることを学んだ。

NIEによって毎日複数の新聞が読める環境にあったことは、3年の学習内容が公民分野中心のため、関心や意欲を高める上でも重要な役割を果たしたといえる。

### (4) 2学年理科

天気の学習をする際、新聞の天気図を拡大して提示したり、ワークシートに使用したりした。たとえば、連続する4日間の天気図から低気圧の動きについて考えさせたり、その位置から翌日の天気を予想させたりした。記録的な大雪の降った際は、その前後の天気図から大雪をもたらした低気圧を確認するとともに、自分達が住む群馬県やその他の地域の生活への影響について、新聞記事を見ながら話し合わせた。

### (5) 3学年家庭科

保育の分野において、出産の感想や、幼児期の読み聞かせの意義について、投書や生活面の記事を用いて授業を組み立てた。

### (6) 1・2学年学活

一人一枚、はがき新聞で学級通信を作成した。テーマは班ごとに設定し、個々で細分化させた。例えばある班は、「1年間を振り返って」をテーマとし、個々に、「運動会」「合唱コンクール」「高原学校」「文化祭」「ランキング」「好きな献立」「〇組の自慢（失

敗)」などとした。

#### (7) その他

校長室や図書館の掲示板に、スポーツの大会を初めとし、本校の生徒が取り上げられた主新聞の記事やコピーを掲示してその活躍を知らせながら、「新聞に名前が載った」「新聞に写真が載った」喜びや、身近な人が取材を受けたことへの関心を高めた。また、これらの記事を共有することで愛校心が高められた。

### 6. 実践の感想と今後の課題

#### (1) アンケートより明らかになった生徒の変容

新聞の配達打ち切られる12月に、全校生徒にアンケート調査を行った。(生徒数530名)なお、家庭で新聞を取っていない生徒が1学年では25%にも上る実態がある。

授業や学活で話題にすることが多かった2学年が、NIEが校内で行われていたことを最も多くの生徒が知っていた(80%)。校内に置かれた新聞を「よく読む」「時々読む」生徒は、3年生が59%と最も多かった。新聞が校内に設置されて以降、自分自身に特に変容がなかったと答えた生徒は1学年40%、2学年30%、3学年46%であるが、半数以上の生徒は、「学校で新聞を読むようになった」「家で新聞を読むようになった」「友人間で新聞記事に関する話題が増えた」「テレビやネットで社会の出来事を見聞きするようになった」「家庭で新聞の話題が増えた」等と答えている。

#### (2) 教師の意識

年度末に教職員にアンケート調査を行った。29名より回答を得た。国語・数学・社会・理科・保健体育・家庭科の教師が授業でNIEを行っていた。道徳や学活(短学活)における利用者は6割だった。しかし、学校に届けられた新聞をほぼ8割の職員が週に数回以上は閲覧していた。生徒が新聞を熱心に閲覧する姿が予想以上に見られるようになったため、生徒の新聞に対する意識が高まったと感じた教職員が多かった。

#### (3) 成果と課題

NIE実践指定初年度ということもあり、まず、毎日届く新聞の管理と活用並びにNIEへの関心を高めるための環境づくりが最優先の課題であった。

図書館担当の職員の尽力により、図書館の大幅な模様替えや図書提示の工夫が継続的に行われていた影響が大きい。図書館の入口を入ってまっすぐの視線の先に「NIEコーナー」を設置する導線を取り、図書委員の当番がその場でスクラップブック作りの作業をした。図書委員は責任と誇りを持ってその任を果たし、NIEに対する関心を高めるトップリーダーとなった。図書館の貸し出し冊数が昨年度に比べ3割増加していることは、NIE周知に決して無関係ではない。また、多くの生徒が利用する廊下に新聞を平置きに展示することで、休み時間や朝、放課後に多くの生徒が新聞を手にとって閲覧する光景が日常的となり、新聞そのものを身近に感じる生徒が増えてきていると思われる。

さらに、授業者が意図的に「NIE」を授業の中で用いることにより、生徒の中に、「NIE」そのことへの興味が生まれた。例えば、授業中等に「はがき新聞を書く」「新聞を作る」という活動を重ねて取り入れることで、見出しやリードを書くことに慣れ、相手意識を持って書くことへの意欲が高まった。

来年度は、担当者の負担を掛けすぎない新聞購読計画の見直し、今年度軌道に乗った整理や管理、委員会活動の活躍を継続すると共に、様々な教科や領域で最新の記事や旬の話題にこだわらない新聞の活用挑戦する為の啓発活動、学びを広げ考えを深めていく生徒の育成に努めていきたい。



# 新聞に親しみ、社会の動きにさらに興味・関心をもつとともに、 社会の出来事に対して自分なりの考えをもてるようになろう

桐生市立広沢中学校 教諭 提橋 浩二 古暮 雅夫 坂口 尚子  
北村由紀子 小池 俊介 松島 孝介

## I 実践の概要

生徒は世界のいろいろな動きについて、関心をもっている。しかし、自分に関心がある出来事が「いつ」「どこで起こっているのか」「その出来事の背景となる様々なこと」について、理解や考えを深めるところまで関心のレベルは達していない。そして、テレビのニュース番組を積極的に視聴したり新聞を読んだりして、「自分の考えをもつ」という習慣の形成は十分とは言えない。

こうした中、昨年度、学校教育に「NIE」をという話をいただいた。そして、生徒の世の中での動きに対する関心のレベルを上げ、興味・関心を満たしていけるように、2年生で「NIE」の実践を行った。具体的には、新聞各紙のコラム欄の活用、教科や道徳の授業での活用である。これらを通して、多くの生徒が新聞を通じた学びから知識を獲得するだけでなく、社会の動きに関心をもつことができた。また、新聞の有用性を感じたり、副産物として、文字の形がよくなったという様子があったりした。

これらを受けた今年度の取組は基本的に昨年度の取組を踏襲したものとし、昨年度の成果をさらに深められるようにしていくことと考えた。それとともに、対象学年を3年生（継続学年）としたことから、高校入試を視野に入れ、社会の出来事に対して自分なりの意見や考えを一層もてるようにしていくことと考えた。

以上のことから、今年度のテーマを「新聞に親しみ、社会の動きにさらに興味・関心をもつとともに、社会の出来事に対して自分なりの考えをもてるようにする」と設定することとした。

## II 新聞の置き場所と整理の方法

### 1 新聞の置き場所

本校第3学年は3学級で構成されている。本校では、新聞各紙をクラスごとに置いたりローテーションで回したりせず、廊下に「新聞コーナー」を設け、いつでも気軽に手にとって新聞を読むことができるようにした（図1）。

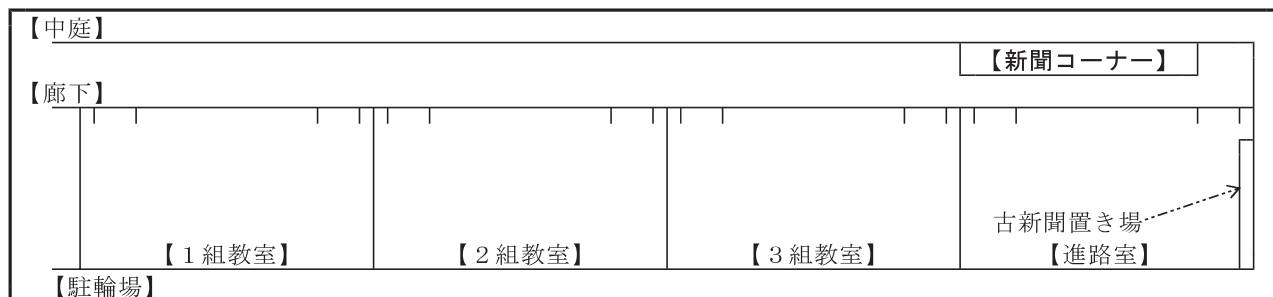


図1 新聞コーナーと進路室の位置

## 2 整理の方法

毎朝職員室に届く新聞各紙を「新聞コーナー」に新聞社ごとに置き、翌日の各紙を前日の上に積み重ねていった。週末の放課後に、生徒の出入りが自由な進路室に置き、古い新聞でも閲覧できるようにした（図1）。

## III 実践の内容

### 1 新聞各紙のコラム欄の活用

社会の動きに興味・関心をもつこと、自分なりの意見や考えをもてるようになることを目的として、昨年度と同様にコラム欄の書き写しとコラムに対する感想の記述を行った（以降『コラムノート』）。以下は、3年次に見られた『コラムノート』である。

#### 『天声人語』(2013/05/03)に対して

戦争を経験した方々の、辛くて苦しい思いがとても伝わってきました。私は、そんな戦争を二度としてはいけないと思います。憲法改正で戦争がありえるかもしれない日本になるのがとても怖い。「美しい国」を守るために、国民一人一人が本気で考え、意見を言うべきだと思います。

#### 『編集手帳』(2013/06/02)に対して

私は本が好きで、家でもよく読むので「自由な、限らない想像」というのが何となく分かる気がします。文字で表現されている分、自分でその場面を想像できる楽しさがあります。最近「本は文字ばかりで読みたくなる」という理由で本を読まない人が増えているけれど、そういう人にもその想像しながら読み進められる楽しさを知ってほしいです。

#### 『天声人語』(2013/10/30)に対して

お米は、日本の古来からの食文化であり、安心や安全を担う大切なものです。私は、このままTPP交渉や減反政策の見直しが進むと、さらに小規模農家の生活を守れなくなってしまうのではないかと心配です。国内の米の消費量が減っている現代、小規模農家の生活も国で守ってほしいと思います。

#### 『編集手帳』(2013/11/03)に対して

中国には、日本と同じ事をしてほしくないです。日本は琉球王国とアイヌ民族を無理矢理日本人にしました。今は偏った考えで政治を動かす人はいないと思うので、共存できる社会をつくってほしいと思います。と同時に、自分の進路のことばかりを考えて、重大な問題が世界で起こっていることを知らなかった自分に憤りを感じます。

#### 『編集手帳』(2013/11/02)に対して

公民で勉強したように天皇には政治を行う権利がないのに、Yさんは何で天皇に手紙で原発の事を相談したのかなと思いました。しかも政治を変えられるのは自分のいる国会なんだから、天皇にすがりつかないで自分でどうにかした方がよいと思いました。僕はこの事を知って、人にすがってばかりいないで、まずは自分でどうにかしようとしないと、このような大人になってしまうから、気をつけたいと思います。でも、どうしても分かんないことは一人で悩んでないで、先生などに相談することも大切だと思います。

#### 『天声人語』(2013/12/15)に対して

私達の学年にも今なお長時間SNSをしている人がいます。目の負担になるなどの健康状態の悪化やコミュニケーションの衰退はもちろんですが、私達は今「受験生」という立場です。スマホ等を持っている人がSNSをしている時間、持っていない人は必死に机に向かっているのだと思います。短時間で終わらせようとしても、なかなか終わりにできないのがSNSの罠です。一人一人が時間の使い方をもう一度見直すべきだとこのコラムを読んで思いました。

これらの感想から、2年生の時よりも格段に社会の出来事に対してのアンテナが高くなるとともに、考えや意見が深まっていることを指摘することができる。また、授業での学びも自分の考えに取り込まれていることが分かる。

ところで、『コラムノート』は、折を見て「学年通信」でも紹介していた。友だちが書いた『コラムノート』を読んで、その取組や考え方に影響した生徒もいた。具体的には、「学年通信」No.54(平成25年10月18日付)において、一人の生徒が「ボールペンで書くことは難しかった。間違えれば訂正できない。願書の時のためにも、コラムをボールペンで書きたいです。」と記したことを紹介した。すると、翌週の『コラムノート』に「ハーモニー(学年通信)を読んで、願書を書く練習として、コラムもボールペンで書くのはいいなと思い、私もボールペンで書いてみましたが、けっこう難しかったです。失敗できないので、このまま練習として続けていきたいです。」などと書いてあった。

## 2 授業での活用

社会科の公民的分野において、例えば、「内閣の役割としくみ」の学習の際には、首相の動静の実際を確かめたり、「株式会社のしくみ」の学習の際には、株価について大観したりした。これらの学習を通して、生徒は学習内容を確認することができるだけでなく、実際に手にとってその記事を探す行為を通して、社会科で学習した内容に関わる様々な情報が掲載されていることを今まで以上に知った。そして、生徒は興味・関心をもって新聞を手にし、新聞を通じて課題を解決しようとする意識が高まってきてもいた。

## IV 実践の感想と今後の課題

### 1 実践の感想

約2年間の「NIE」であったが、この間、新聞を通じて様々な出会いがあり、学びがあった。コラムの書き写しは、無償提供期間の終わった1月以降も、卒業式があった週まで続けた。ここでの感想には次のようなものが見られた。

#### 『編集手帳』(2014/01/25)に対して

私は春が好きなので、毎年、春の足音を感じると嬉しい気分になります。しかし、今年は喜んでなどられません。春が近づいてくる事は、同時に公立試験が近づいてくる事も意味するからです。いつもの年の様に喜んで春を迎えられる様に、受験に向けて一日一日を大切にしていきたいです。

#### 『三山春秋』(2014/02/14)に対して

私も、このコラムと同じように、誇りと自信は「一生懸命」からしか生まれません。これは、今の私にぴったりの言葉だと思いました。志望校へ行くには、絶対に合格するという「自信」が大切です。しかし、「自信」は、一生懸命勉強した分だけしかつきません。今、私に一番必要なことは、自分に自信がつくまで勉強することだと思っています。私は、志望校に向けて、さらにその先に向けて、努力し続けたいです。

これらの感想から、コラムに対しての意見や考えに加え、自分の境遇と重ね合わせて考えを巡らせていることを指摘することができる。そして、最後の『コラムノート』には、次のような感想を見ることができた。

- 3.11からも三年。コラムノートを始めて三年が経ち、これで最後でした。自分の感想を書くというのは、とても役に立ち、今後も使うでしょう。1年の時は、少し大変でしたが、書いていくといろいろ大切な事に気がつきました。私にとって、とてもいい経験になりました。



- 3年間最後のコラムノートでした。1年生の時の最初のコラムノートから今までのを見ても、だいぶ字が変わっていました。前よりも上手になったと思います。私はコラムノートをきっかけに、よく新聞を読むようになりました。3年間続けてきてよかったです。
- 私は、三年間コラムノートを続けて、多くのことを身に付けることができました。まず、語彙がとて増えたと思います。はじめは読みも書きもとても時間がかかりましたが、だんだんと慣れて速く書けるようになりました。また、時事問題によく目を向けるようになりました。高校生になっても、社会のことを知るために新聞を毎日読みたいです。三年間、ありがとうございました。  
これらから、今年度のテーマである「新聞に親しみ、社会の動きにさらに興味・関心をもつとともに、社会の出来事に対して自分なりの考えをもてるようにする」は概ね達成できたと考えられる。

## 2 今後の課題

- 『コラムノート』の取組を他学年にも広げ、より多くの生徒が視野を広げることができるようにすること。
- 授業での活用場面を増やし、学びと社会の動きが関連していることに気づかせ、主体的に学ぶ姿勢を育てること。



# NIEで言語能力の向上を図り、「社会で生きて働く力」を育む (3年計画の1年次)

太田市立西中学校 松橋美智子

## (1) 実践の概要

新聞をツールとするNIE活動により、「リサーチアビリティ」「コラボレーションアビリティ」「プレゼンテーションアビリティ」という三つの教科横断的な「学習力」を「ベース」に、言語活動を活発化し、言語能力を高め、「メディアリテラシー」のスキルを学び、自分と社会とのつながりを考えさせることによって「社会で生きて働く力」の素地を身につけさせる。

主な対象は1年生だが、報道委員会の活動にも「新聞理解学習」と「新聞利用学習」及び「新聞づくり活動」の三つの活動を取り入れ、全校でNIE活動に取り組む体制づくりに努めた。

校内研修のテーマも「確かな学力を身に付けた生徒の育成～言語活動の充実を通して～」であり、NIEは基礎となる語彙力・漢字力の向上と読解力・表現力の向上とメディアリテラシー・情報活用能力の向上に大変有効であった。なお、この実践に際しては、京都教育大学附属桃山中学校神崎友子先生の実践を参考にさせていただいた。



- ・「リサーチアビリティ」 … 情報の収集
- ・「コラボレーションアビリティ」 … グループで学び合い相互に啓発する力
- ・「プレゼンテーションアビリティ」 … 自分の意見を整理しわかりやすく発表する力
- ・学びの柱「メディアリテラシー」 … 情報を精査し、時代を読みとく力

## (2) 新聞の置き場所と整理の方法

新聞は、上毛新聞・東京新聞・産経新聞・毎日新聞・朝日新聞・読売新聞・日本経済新聞の7紙を提供して頂いた。

上記に加え、読売新聞については新聞店のご好意で、全クラスに1部ずつ(13部)が届くため、生徒玄関に「新聞入れ」を設置し、各クラスの新聞当番が登校時に自分の学級に新聞を持っていき「NIE新聞ラック」に置くため、全校生徒がいつでも自由に教室で新聞が読めるようにした。

また、報道委員会の活動として、生徒玄関に毎朝届く7紙の一面が比べられるように掲示する「新聞当番」活動を行った。この活動により、登校時に全校生徒が自然に朝刊紙面の比較ができるため、各紙の記事の取り上げ方や見出しのつけ方の違いにも気づき、関心を高めるのに効果的であった。

## (3) 実践内容

「ニュースキャスター活動」と「ニュース1分間プレゼンテーション」は国語の時間の常時活動として行ってきたが、その他にも次のような活動を行ってきた。

### ①「ことばの貯金箱」活動

1年生も保護者もNIEについては何も知らないという状態であったため、ファミリーフォーカスへと発展させていくことを視野において、授業参観の際に「ことばの貯金箱」の授業を行い、NIEへの関心を持たせる第一歩とした。

この活動は、東日本大震災後の児童生徒や仮設住宅で暮らす多くの人たちの心をいやすためにも大変効果があったという白鷗大学の渡辺祐子先生の実践を参考にしたが、見出しや言葉に注目させることにより、語彙力や言語感覚を高めるために大変有効であった。

また、できあがった作品はグループエンカウンターの手法を取り入れた合評会を行いお互い良さを確認しあった。



上 「ことばの貯金箱」に取り組む生徒  
床にまで紙面をひろげて言葉を選ぶ



左 切り抜いた見出しの言葉を台紙に  
自由にレイアウトする生徒の様子



右 「ことばの貯金箱」合評会の様子

## ②新聞スクラップ活動

「コラム調べ」と題した新聞スクラップ活動、「私論・短論 100 字コラム・200 字コラム（自分が選んだ新聞記事についてコラムを書く）」自分の興味関心を持った記事について解説する「5 分間ニュースキャスター」活動や「1 分間ニュースプレゼン」等は常時活動として継続してきた。

その結果、「私論・短論コラム」活動では「ジュニア・ジャーナリストコンクール」で優秀賞や入選などの好成績を修めることができた。また、「新聞切抜きコンクール」でも優秀賞を受賞することができた。

これらの活動を通して、実社会の出来事に関心を持ち、新聞記事をきっかけとしてインターネットや図書資料等を使ってより詳しく調べ、自分の考えを持つことができるようになっている。



「新聞切抜き作品」の発表

## ③一面コラムの書き写し（視写）活動

「天声人語」や「編集手帳」、「三山春秋」「余禄」「筆洗」等、さまざまな新聞社の一面コラムを書き写させることにより、文章力（語彙力・表現力・構成力）、時事力、（世の中の出来事に敏感になること）集中力のアップを図った。

当初は10分間で250～300文字前後しか書き写せない状態であったが、回を重ねる度に速くなり、600字以上を越す生徒もでてきている。

発展学習として、書き写しだけでなくコラムの難語句調べや新出漢字の練習等も組み合わせせたが、辞書の活用が増え、語彙が増加した。



発表後の意見発表の様子



上 「新聞切抜き作品」

④新聞記者の出前授業

○単元名 1年「友達をみんなに紹介しよう～取材してスピーチで伝える～」

ゲストティーチャーとして上毛新聞の石田記者を招き、関心と意欲を高め、主体的に活動できるよう工夫するとともにゲーム的な要素を取り入れたりグループでの交流を行ったりすることにより、よい聞き方やよい話し方はどういうものかを考えさせる。

【単元の目標】 略

【本時のねらい】 (9時間予定の1時間)

「すごろくトーク」やゲストティーチャーとして招いた新聞記者の模範インタビューの視聴を通して、良い聞き方についての意識と意欲を高める。

| 生徒の学習活動   | 工夫したところ   |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1、良い聞き方話し方について考える。</li> <li>2、「おはよう」という言葉を例として取り上げ、人の話を聞くときは、言葉の調子を聞き取ることの大切さに気づかせる。</li> <li>3、聞き手によって、会話がどのように変わるのか、「すごろくトーク」(無反応トーク・リアクショントーク)を行う。</li> <li>4、二つの「すごろくトーク」を比べ、「リクショントーク」が楽しかったのはなぜかを話し合う。</li> <li>5、ゲストティーチャーとして招いた新聞記者の「模範インタビュー」を見せもらう。</li> <li>6、気づいたことを発表する。</li> <li>7、「インタビューの秘訣・良い聞き手とは」について、新聞記者の話聞く。</li> <li>8、記者の話参考にして、代表生徒が仲間前で友達にインタビューをする。</li> <li>9、次時の予告<br/>次時は今日の授業で学んだことをもとに友達に対してインタビューをすることを確認する。</li> </ol> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の答えを聞いたあと「良く聞くこと」に着目させた。</li> <li>○明るい言い方の「おはよう」と元気のない言い方の「おはよう」を聞き、それぞれがどんな場面でどんな気持ちで言っているのかを考えさせ、話し方から受ける感じの違いを自由に発表させることにより、答えやすいたのしい雰囲気づくりをした。</li> <li>○人から話を聞くとき、つまり、インタビューをしているとき、相手が無反応だったらどう感じるかを「すごろくトーク」で確かめさせた後に、頷いたり相づちをうつ等のリアクションをするように促し、その時の話し手の気持ちの違いや雰囲気の違いに気づかせ、その理由を考えさせた。</li> <li>○ゲストティーチャーとして新聞記者が登場したことによって、生徒の関心を大変高めることが出来た。</li> <li>○相手のことを考えた話し方・聞き方を意識させ、これからの「インタビュー・取材活動」への意欲が高まるよう働きかけた。</li> </ul> |



○新聞の見方・楽しみ方・比較読みの仕方  
東京・中日新聞N I Eコーディネーター  
横山健次郎先生の出前授業

生徒たちの制作した「新聞切り抜き作品」についての具体的なアドバイス、新聞記事の比較読みのすすめ方、新聞を読む視点について等、横山先生からさまざまなアドバイスをいただいた。

横山先生に触発され、生徒たちは休み時間にも同行した東京新聞の小原記者にも記事の編集の仕方や着眼点について、矢継ぎ早の質問を浴びせていた。



上 仲間同士の代表インタビュー  
(7月19日 上毛新聞に掲載)



上 横山先生の出前授業



上 小原記者から新聞の割り付けを学ぶ

#### ・新聞づくり活動

総合的な学習の時間のまとめとして「自分新聞」「赤城林間学校学習新聞」の制作を行った。また、報道委員会活動の生徒が中心となって全校で「学級新聞づくり」に取り組んだ。これらの新聞は「五地区の学校新聞コンクール」や「全国小・中学校新聞コンクール」で「特選」「準特選」「入選」「奨励賞」など好成績を修めた。さらに、「故事成語新聞」や様々な講義の講師の方々から自分が学んだことや感謝の思いを伝える「はがき新聞」づくりも行った。



左から「故事成語新聞」「助産師出前授業」「薬物乱用防止」「礼状新聞」「N I E新聞」

#### (4) 実践の感想と今後の課題

当初は「新聞は難しくて、読んだことがない」という生徒ばかりだったが、1年間の取り組みで新聞に興味を持ち、自分から新聞を手にするようになった。今後も継続し、生徒がその成果を自分で実感できるよう指導を工夫していきたい。





# NIE実践報告書（3年次） 道徳実践記録「原発問題を考える」

太田市立強戸中学校 教諭 神部 秀一 萩口 真衣

## 1 はじめに

平成25年11月13日に、上毛新聞社の山脇孝雄さんから電話が入った。「神部先生、今日の新聞を取っておいてください。原発問題に関して各社の取り扱いの違いが鮮明に出ています。」

山脇さんには、本校2年生への出前授業「記事の比較」をお願いしていた。山脇さんが指摘したのは、次に示す小泉純一郎元首相の「脱原発」発言を巡る記事であった。

- ①東京新聞1面：原発「即ゼロ」決断を
- ②朝日新聞1面：原発「即ゼロ」首相に迫る
- ③毎日新聞1面：首相決断で原発即ゼロ
- ④読売新聞4面：小泉氏「原発『即ゼロ』がいい」
- ⑤産経新聞5面：原発ゼロ夢のある大きな事業
- ⑥日本経済新聞3面：処分場、日本はメド立たず（扱いが他紙に比べて非常に小さい）
- ⑦上毛新聞2面：脱原発「首相決断を」

①から③が、「脱原発」に賛成、つまり「原発反対」。1面に載せて大きく報道した。④から⑥は、1面ではなく4面・5面・3面での扱いで「脱原発」にあまり関心がない、つまり「原発容認または原発賛成」ということが読み取れた。とりわけ「⑥日本経済新聞」の記事は、扱いが他紙と比べて非常に小さく、小泉発言には興味がないようだった。

山脇さんは、本校2年生を対象に、記事を比較して違いを生む要因について分かり易く解説してくださった。山脇さんの出前授業が終了したあと、われわれ（萩口・神部）は、この記事はこれで終わりにしてしまっただけで、もったいないと感じた。

原発問題は、将来の国のエネルギー政策をどうするかというわが国にとって重要な問題である。こうした問題は、授業で扱うことで、生徒は初めて問題の所在に気づく。授業でなければ、敢えて考えようとはしない課題である。そこで、われわれは、この記事を使って3学期に道徳「原発問題を考える」を実施することにした。対象は、われわれが所属する第1学年の生徒とし、萩口が担任するB組を「NIE公開授業」とすることを決めた。

## 2 NIE公開授業 道徳「原発問題を考える」の報告

### 2.1 実施日時、対象（指導教室）

平成26年2月19日（水）・第2校時 1年B組生徒（1年B組教室）

### 2.2 授業の目標

社会に目を向け、日本人として国民全体の幸福と、国としてのよりよい在り方につい

て、考えを深める。

### 2.3 生徒の実態（事前調査）

原発問題について、どのくらいの生徒が知っているのか、関心があるのか、事前アンケート調査を実施した。5段階評定（5＝大変よく、4＝まあまあ、3＝少し、2＝あまり、1＝全然）で調べた結果が表1である。また、原発について賛否を尋ねたところ、賛成（1人）、反対（5人）、分からない（19人）、という結果であった。

<表1> 原発問題についての事前調査結果

|       | 5  | 4  | 3  | 2  | 1  |
|-------|----|----|----|----|----|
| 知っている | 4人 | 4人 | 6人 | 5人 | 6人 |
| 関心がある | 4人 | 2人 | 4人 | 6人 | 9人 |



【1Aでの授業】

### 2.4 本時の概要

#### ① 導入

11月13日の朝刊7紙を紹介し、今日の授業のテーマ、世論を二分する問題「原発問題」について考えを深めていこう、と投げかけた。

#### ② 原発是非についての説明 ～その1～

ここは、B組担任の萩口と学年主任（B組副担任）の神部が、ティームティーチング（TT）で授業を進めた。T1の萩口が原発賛成、T2の神部が原発反対、それぞれの立場を説明・紹介していった。以下が説明の概要である。

#### <T1（萩口）「原発賛成」の意見紹介（概要）：キーワード「環境・安定供給」>

原子力発電所は環境に優しいです。現状のまま、火力発電を続け、二酸化炭素を出し続けていると、皆さんも知っているとおり、地球温暖化が進み、異常気象、海面の上昇など、地球規模で大変なことになります。原発は、火力発電に比べて、遙かに地球に優しいエネルギーなのです。

火力発電には、石炭や石油といった化石燃料が必要です。これらの化石燃料は、もしも中東情勢が悪くなれば、輸入できません。火力発電が行えないという状況になります。一方で、原子力発電の燃料であるウランは産地に偏りがなく、安定的に入手できます。中国がダメならカナダから、カナダがダメならオーストラリアから入手できるのです。

#### <T2（神部）「原発反対」の意見紹介（概要）：キーワード「危険性・処理場」>

原子力発電所は、ひとたび事故を起こせば、多くの人の命を危うくし、多くの人の住む場所を奪います。放射能を大量に浴びた土地は、人が住むことができなくなってしまいます。3.11から3年経った今も、14万人の方が避難生活を送っています。日本は、環太平洋火山帯の一部です。海に囲まれています。だから、地震が多く、津波もある。地震や津波から逃れることができません。過去の歴史が証明しています。原発は、火山国である日本に馴染まないのです。

また、原子力発電では、毒性の高い放射性廃棄物がうまれます。日本では、2000年に、地下300メートルより深い所に核のゴミを埋設することが法律で決まりました。しかし、どこも自分の町に放射性廃棄物を埋めたくない。引き受けるところがありません。現在は、青森県の六ヶ所村というところで一時的に保管されています。もし、この強戸に埋めるということになったら、「安全です」といっても、強戸の米や野菜が売れなくなってしまいます。風評被害です。福島がそうだったでしょう。

原発からは、必ずゴミが出ます。その処理場がないのに、原発を続けられるのでしょうか。

### ③ 生徒の判断（1回目）

ここで生徒に、原発の賛否を判断させ、理由を発表させた（判断1回目）。その結果、全員が原発反対ということになった。生徒からは、異口同音に次の意見が出された。

- ・廃棄物の処理場も準備されていない。
- ・小さな地震でも危険性が高く、事故が起きれば人の命や住む場所を奪う。

### ④ 原発是非についての説明 ～その2～

われわれは、さらに説明を続けた。神部が「コスト」の観点で、萩口が「技術力」の観点で反対、賛成の意見を紹介した。（内容は省略）

### ⑤ 生徒の判断（2回目）

萩口が、生徒に2回目の判断を促した。「意見が変わった人はいますか」と聞いたが、意見が変わった生徒はいなかった。したがって、2回目も、全員が原発反対であった。

### ⑥ 産経ネット記事の紹介

ここまでは予想した通りだった。われわれは、原発反対が多いだらうと考えていた。これで授業が終了したのでは、原発に関する知識を増やただけで、「考えを深め」たことにはならない。授業としても面白くない。

生徒にもう一步踏み込んで考えてほしいと思い、東京都知事選の結果や原発周辺自治体首長の「再稼働容認 首長 54%」（読売 2013年1月6日）を紹介し、最後に、高橋昌之氏の産経ネット記事から次の部分を紹介した。

「現在、火力発電をフル稼働しています。万一、中東からの石油の輸入が途絶えたら、……。

電気によって動いている水道も下水道もストップします。下水道がストップするということは逆流するということで、トイレや台所から汚水があふれ出す事態になるのです。

当然、夏や冬の冷暖房も使えなくなります。交通機関も、情報通信などもストップします。工場での生産、企業活動も停止されることになります。

日本国内からモノがなくなり、経済は破綻します。

したがって日本社会が大パニックになることは明らかなのです。その事態になっても国民世論は『原発は動かすな』となるのでしょうか。きっと『原発を早く動かせ』ということになるに違いありません。

しかし、原発はすぐに動かせるものではありません。停止していた原発はそれこそ、安全性をすべて点検したうえでなければ再稼働できません。……」

### ⑦ 生徒の判断（3回目）

この高橋氏の記事に、生徒は相当悩んだようだ。結局、全員反対のうち、9人が賛成へと変化した。

- ・原発をなくせば、電力不足となり生活ができなくなる。
  - ・原発がなかったら急に電気が止まったりする。
- 等の意見が出た。



【公開授業（1B）】

## 3 結果

### 3.1 授業アンケートの結果

授業後に、本授業に関するアンケート調査を実施した。表2がその結果である。原発につい

での理解が深まったこと、生徒がよく考えた授業であったこと、高い授業評価であったこと等が確認できた。

＜表2 授業後アンケート結果：5段階評定＞ (※1年B組24人)

|                        | 5  | 4  | 3 | 2 | 1 | 平均値  |
|------------------------|----|----|---|---|---|------|
| 1 原発のよい点や悪い点が、分かった。    | 15 | 6  | 2 | 1 | 0 | 4.46 |
| 2 原発について、考えが深まった。      | 11 | 10 | 2 | 1 | 0 | 4.29 |
| 3 今後の日本のエネルギー政策を考えられた。 | 3  | 12 | 8 | 0 | 1 | 3.67 |
| 4 日本の国のあり方について考えた。     | 5  | 10 | 6 | 2 | 1 | 3.67 |
| 5 一生懸命考えた。             | 15 | 7  | 1 | 1 | 0 | 4.5  |
| 6 授業評価                 | 12 | 9  | 3 | 0 | 0 | 4.38 |

### 3.2 授業の感想

#### ＜最終判断が「原発反対派」の感想＞

原発の存在は震災があった後に知ったので、原発の悪い点くらいしか知らなかったけど、今回の授業で、原発にも良い点があったんだということがわかった。／原発を動かすことに、私はずっと反対していましたが、原発がなくても恐ろしいことが起こるとことがわかった。／原発に1兆超えのお金がかかることを知った。この授業によって原発にもっと興味が深まった。／原発は悪いことばかりだと思っていたけど、いいこともあることがわかった。今後の日本のことをよく考えさせられた。／原発は危険であることがわかった。ゴミが出るのに処分場がないのはいけないと思いました。／原発は悪いとしか知らなかったけど、良い点もわかった。でも、人に害があると思うと怖い。／原発は動いていると危ないから反対で、最後まで反対だったけど、動いていないと困ることもあるなど思った。

#### ＜最終判断が「原発賛成派」の感想＞

原発はこんなにも危なく、お金がかかり、だけど、大切なものなんだと思った。初めてこのことを知ったのでよかった。／はじめは原発は怖いとか危険とかのイメージがあったけど、もし原発がなくなったら、電気が使えなくなってしまい、生活するのが大変になるということを学び、原発にも良い面があるのだなど思った。これから、もっと日本の技術が高まって、原発も絶対安全になってくれればいいと思う。／原発だけが危険ではなく、火力は火事になったら危ないし、風力だってプロペラがダメになったら危ない。／原発には環境問題が関わってくるということがわかった。処理場がなくてゴミが増えてしまうということがわかった。逆に二酸化炭素が増えないということも知ることができてよかった。

## 4 おわりに

この授業は、上毛・毎日・東京・産経の各新聞で紹介された。各紙それぞれに授業の流れを正確に写した。上毛は、授業後にインタビューした生徒の言葉を載せた。毎日は、小泉発言翌日の各新聞の紹介の仕方を詳しく報じた。東京は、事後にわれわれに電話でインタビューして「生徒が悩んだり迷ったりするように仕掛けた」という授業者の工夫点に触れた。産経が、この授業については最も紙面を割き、授業の具体を詳細に述べた。今回は「教師が記事を読み解く"ナビゲーター"役となったが」と記し、今後は自分自身で読み解

けるように、という方向性も示唆していた。取り上げてくださった各新聞社に感謝したい。



#### 【関連記事の紹介と解説】

今回の授業は、山脇さんの電話から始まった。山脇さんからの電話がなければ、われわれはこの記事を手に入れることはできなかったと思う。記事のお陰で、われわれにとって確かな手応えのある授業となった。素材となる記事をどのように手に入れるか。この重要課題への一つの解決策を、図らずも山脇さんは示してくださったと考えている。



# 新聞（情報）を活用しながら思考力・表現力の向上を図る取り組み

昭和村立昭和中学校 教諭 梅澤由紀子 高井 雪絵 岡田 秀久  
秋元 秀文 中島 康男

## 1 実践の概要

NIE 実践の今年度の取り組みとして、本校の研修主題である「確かな学力を身につけさせるための授業改善 ～話し合い活動の充実を通して～」を念頭に置き、思考力・表現力の向上を目指し、有効的な新聞活用の方法を考えながら実践を進めた。

具体的な実践として、次の3点の取り組みを行った。

- (1) NIE コーナーの設置
- (2) 各教室へ、新聞配達
- (3) 国語・社会での授業実践（指導案の作成・研究授業の実施）

### ○社会の実践に関して

今年度の授業実践の1つ目は、新聞記事を授業に取り入れやすい3年生の社会科公民で行うことにした。当初は10月初旬を考えていたが授業の展開を考えていく中で、生徒の既習事項であるかどうかを考慮した上で、11月下旬の実施とした。そして以下のように、授業をNIEと関連付けた。

住民の積極的な政治参加が地方自治を支えていることに気づき、望ましい政治参加のあり方を考えさせることを1つの目標とした。そのためには、情報を収集し、様々な角度から批判的に読み取ることが重要であると考えた。情報を収集するための媒体の1つに、新聞を取り上げた。授業では、地方公共団体の抱える財政上の課題を理解させるために、具体的な例が掲載されている記事を取り上げることで、より身近で新鮮な題材として生徒が取り組む事ができると考えた。また、新聞を活用することにより、社会的事象に関心を持つことやメディア・リテラシーを身に付けることができると考えた。

そして、やがて成人した時には、何らかの形で地域の政治に参加していこうとする態度を育むことにつながる。これは、地方自治は住民参加の上で成り立っているという意識を生徒たちに培う上で大変意義あるものと考えて授業を展開した。

### ○国語の実践に関して

授業実践の2つ目は、1年生の国語で行った。1年生は、職場見学を毎年11月中旬に実施している。その職場体験を受けて、国語の授業で職場体験新聞を書かせている。そこで新聞作りをより効果的に進めるにあたり新聞を活用し、以下のように授業をNIEと関連付けた。

学習目標は「日常生活の中から題材を決め、材料を集める」「文章の構成を考え、理由を明確にする自分の考えを書く」である。そして学習活動は、「職場見学新聞を作成すること」である。今回の学習では、新聞を作成する上で実際の新聞を活用しながら生徒に新習の構成や見出しの付け方などの工夫に気付かせ、自分達の新聞作成に生かしていく学習的活動を設定した。これにより、自分達の新聞の紙面構成や文章構成、また見出しの効果的な付け方などに生かせるものと考えて授業を展開した。

## 2 新聞の置き場所と整理の方法

9月～12月までの4ヶ月間、7紙の新聞を1紙ずつ提供していただいた。

- ① 配達された新聞は、広報委員が職員室前廊下に作ったNIE コーナーに、1面記事を掲示し、各紙による1面記事の扱いの違いを分かるようにした。
- ② 1面以外の新聞は7学級あるので、各学級日替わりで朝、その日の新聞を担当が教室へ届け、生徒が休み時間等に新聞を見られるようにした。
- ③ バックナンバー1週間分は、NIE コーナーに保管しておき、1週間経った新聞については、第2図書室へ持っていき、全て保管して生徒がいつでも見られるようにしておいた。



広報委員による新聞を  
付け替える様子



1面記事の見比べ



第2図書室へ保管

### 3 実践の内容

#### 【社会：3年生授業実践】

― 授業の視点 ―

地方公共団体が抱える財政上の課題を考えさせるために、財政難に対する新聞記事を用いたことは、生徒たちの課題解決策を考える意識を高めるうえで有効であったか。

1 単元名 「地方の政治と自治」(第3章 現代の民主政治と社会 より)

2 本時の学習

(1) ねらい

地方公共団体が抱える、財政上の課題とその解決方法について考え話し合う。

(2) 準備

教師…教科書・ワークシート・新聞資料 (①朝日新聞 11月7日朝刊・②上毛新聞 11月8日朝刊)

生徒…教科書・ノート・資料集・用語集

(3) 展開

| 過程                                       | 学習活動  | 時間           | 支援・指導上の留意点  | 評価項目 (方法)  |
|--|---|--------------|---|--|
| 導入                                       | ○新聞資料①を読み、本時の課題について確認する。  | 10           | ・新聞資料①は、事前に生徒たちに配布し一読させておき、ここでは傍線部を教師が範読することで、要点を確認する。  |  |
| <p>ごみ焼却場の建て替えができない、地方財政の立て直しについて考えよう</p> |   |              |   |  |
|  |   |              | ・財政の立て直しには、税金を増やすか、支出を削減するかの2つの方法が考えられることを強調し、後半の学習につなげる。   |  |
| 展開                                       | ○地方財政の財源について、教科書のグラフをもとにして、ワークシートにまとめる。<br><br>○財政難に苦しむ地方公共団体の立て直し方法について、班で話し合い意見をまとめる。<br>①収入の増加<br>(収入の多い人から、たくさん税金を取るようにする)<br>(企業にどんどん工場を建ててもらえるように、税金を安くしてアピールする)<br>(観光地としてのイメージアップをはかり、客を呼ぶ)<br>(ゆるキャラをつくり、関連商品とともに全国で宣伝活動を展開する)<br>②支出の削減<br>(学校の数を少なくして、スクールバスで登下校できるようにする)<br>(ごみの量を減らして、処理費用を少なくする)<br>○班ごとに発表し、意見をクラス全体で交流し、考えを深める。 | 10<br><br>20 | ・自主財源が4割程度であること、国からの援助でも不足するときは、地方債を発行していることにもふれる。<br>・班の話し合いでは、<br>①収入の増加・②支出の削減の2つのポイントに絞って考えるように指示する。<br>・ホワイトボードに班ごとに意見を記入させ、掲示することで、クラス全体での意見交換につなげる。<br>・教科書の資料を活用して、財政健全化のため職員を減らしたり、事業を削ったり、市町村合併をしたりしている現状を理解させる。<br>・収入の増加については、既習事項である「村おこし」の内容を思い出すように助言する。<br>・支出の削減については、職員や事業の削減を行っていること、事業仕分けを行っていることを教科書から読み取る。また、市町村合併も1つの考え方であることを、話し合いの中で触れる。しかし、市町村合併にも「社会が大きく変化する」「住民の意見が通りにくくなっている」などの問題点が存在することも知らせる。 | ○地方公共団体の財政上の課題と解決策について、適切に表現している。<br>◎地方公共団体の財政上の課題と解決策について、様々な角度から考え、適切に表現している。<br>【思考・判断・表現】<br>(活動の様子・ワークシート) |
| まとめ                                      | ○新聞資料②から、県内の自治体の取り組み例を理解する。   | 5            | ・新聞資料②を配布し、県内の自治体は、改修するか新設するかで対応が様々であることを説明する。  |  |

成果と課題

- ◎ NIE の活用することによって、意図的に作られたものというだけでなく、現実に行っている身近な話題であることが分かり。問題をより真剣に考えることができるきっかけになったと思う。
- ただ、新聞記事でなくても同じようなオリジナル資料を作成し、もっと分かりやすく提示することは可能だったと思う。生徒にとって新聞の活用は有意義だったのか聞きたかった。
- 課題として、新聞記事が時事問題を考えたり、公民の授業で使えるような資料はたくさん存在するが、どの資料を使うことが有益なのか考えることや、資料集めの難しさが存在する。



「新聞記事を読んでいる様子」



「話し合いの様子」

【国語：1年生授業実践】

— 授業の視点 —

職場見学新聞のトップ記事の見出しをつくるために、実際の新聞を活用して見出しの特徴を話し合ったことは、相手に印象づける見出しを作成する上で有効であったか。

1. 単元名 多角的に考える
2. 教材名 私のトップニュースを書こう
3. 本時の学習
  - (1) ねらい
    - 新聞の見出しの特徴について話し合い、自分のトップ記事に見出しをつけることができる。
  - (2) 準備
    - ・見出しクイズプリント・新聞の一面記事・職場見学下書き記事・見出し作成プリント
    - ・ホワイトボード・ホワイトボードペン
  - (3) 展開

| 過程 | 学習活動  | 時間 | 支援・指導上の留意点  | 評価項目（方法） |
|----|---|----|---|----------|
| 導入 | 1 本時の学習のねらいを確認し、見出しあてクイズを行う。<br>・時間内にグループで協力して考え、ホワイトボードに書いて黒板に掲示する。  | 10 | ・新聞の構成要素の確認と見出しの重要性をおさえる。<br>・生徒が考えやすいような身近な記事を問題にする。<br>・新聞記事の見出しに近いグループに、どうしてこの見出しにしたのか発表させる。   |          |
| 展開 | 2 新聞の一面記事から見出しの特徴について話し合う。<br>【予想される生徒の反応】<br>①まったく特徴が探せない。<br>②見てわかることしか探せない。<br>③内容と関連付けて探せている。<br><br>3 新聞の見出しの特徴についてまとめる。 | 15 | ・グループで考えを出し合い、ホワイトボードにまとめさせる。話し合いの司会と記録者は事前に決めておく。<br>【予想される生徒への手立て】<br>①ひと目見てわかることはないか考えさせる。<br>「短い。目立つ。文字の大きさが違う。」<br>②使われている言葉や記事の内容との関係に着目させて考えさせる。<br>「記事の言葉が使われている。伝えたい言葉を見出しにしている。」<br>③印象的にするための工夫に着目させて考えさせる。<br>「言い切りの形になっている。長い言葉を省略している。」<br>①なるべく短い言葉で、ひと目見て内容がわかる。<br>②省略・言い切りの形で印象づける。<br>③大きく、太く、目立たせる。 |          |



|    |   |    |   |  |
|----|---|----|---|--|
|    | <p>4 自分のトップ記事に見出しをつける。</p> <p>①伝えたい一文を記事から選ぶ。</p> <p>②内容がわかる程度に「何がどうした」の形にまとめる。</p> <p>③大事な言葉、伝えたい言葉に線を引き、見出しの形にまとめる。</p> | 15 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・見出しの特徴を生かして、手順を示したプリントを用いて個人で考えさせる。</li> <li>・①ができない生徒には、下書きのどこを伝えたいのか考えさせる。</li> <li>・②ができない生徒には、主語と述語の関係を想起させる。</li> <li>・③ができない生徒には、新聞の一面記事の見出しを参考に考えさせる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○見出しの特徴を生かして、自分の記事に見出しをつけることができる。</li> <li>◎見出しの特徴を生かして、伝えたい言葉を効果的に組み合わせる印象的な見出しをつけることができる。</li> </ul> <p>〈学習プリント、発言〉</p> |
| 終末 | 5 つけた見出しを発表する   | 10 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ内で出来た見出しを発表し合い、一番良くできた見出しを選ぶ。</li> <li>・見出しを選ぶ際、見出しの特徴を踏まえて選ぶようにさせる。</li> <li>・班ごとに選ばれた見出しを発表する。その際、どこを工夫したかを発表させる。</li> </ul>                                      |  |

#### 成果と課題

- ◎新聞の記事を十分に活用した授業だった。生徒に新聞への関心を持たせるのによい授業だった。
- ◎「見出しあて」「見出しの特徴」をつかむのに新聞が効果的に使われていた。
- 生徒が関心を持つ記事を選ぶのが大変。子ども新聞ならいいが、内容が難しい上、漢字なども中1には難しい面が多い中でいかに興味をもたせられるかが一番大変だった。
- 新聞の見出しをつけるという内容で実物を活用することは有効であったと思う。班を6つ作り、同じ日付の新聞を6紙取り上げた良さをもっといかせると良かったと思う。



「授業の様子」



「できあがった新聞」

## 4 実践の感想と今後の課題

今年度から NIE 実践校となり、手探り状態での実践だった。NIE 推進委員を中心にして実践を行っていく中で、以下の点における成果と課題が見つかった。

成果として、生徒と教師と共に新聞に対する興味や関心が広まった。特に、新聞を7紙一度に見比べる機会はないので、新聞によって書き方や取り扱う内容の違いなどを実際に見ることができたこともメディア・リテラシーを学ぶ上で効果があったと思う。授業実践についても、上記の実践内容でも述べたように、思考力や表現力を高めるための教材として、新聞を有効に活用することで昨年度までの同様の活動と比較しても明らかな違いが見られ、表現力の向上に結びつけることができた。

課題としては、授業での新聞の活用の難しさを感じた。多くの場面で新聞を活用することは、大変有意義なことであると理解はできている。しかし、ただ活用すればよいというものでもないで、取り扱う内容の精選や活用方法を工夫することが課題として残った。また以前より関心は高まったと感じるが、それによって家でも学校でも新聞を読むようになったかという点、そこまでの関心は高まっていない。日々、多忙な学校生活の中で新聞をじっくり読もうと考える生徒は少なく、新聞を読む時間を確保することができないことが最大の原因であると考えられる。

NIE の実践指定校にならなければ、新聞を有効に活用していこうという考え方は生じてこなかったと思う。そういう意味でも本校が指定されたことに、非常に感謝したい。来年度は、実践の2年目になる。今年度感じた課題を解消し、更に有効に新聞を活用することができるように NIE の取り組みを充実させられるようにしていきたい。



# 「学ぶ意欲」向上のための新聞を活用した授業実践

群馬県立館林商工高等学校 教諭 藤巻 真 阿久津延正

## 1. 実践の概要

本校は、昨年度に引き続き「NIE 実践指定校」として地歴・公民科で新聞を使った実践を行った。年度始めに生徒にアンケートを取ったところ、「新聞をほとんど読んでいない」という生徒が多く、なかには「新聞を家で取っていない」という家庭も多かった。

そこで、新聞に親しみながら、活字に触れる機会を少しでも増やすこと、少しずつ世の中の動きに関心が向いていくようにすること、表現力や情報活用能力を育成することを目的に授業を構成し、2年生の『現代社会』（必修科目、3単位）、3年生の『政治・経済』（選択科目、2単位）の授業を通して、「学ぶ意欲」が高まるように授業実践を行った。

<2年生『現代社会』（必修科目：3単位）>

|        |             |
|--------|-------------|
| 4月～12月 | 【ニュース&スピーチ】 |
|--------|-------------|

<3年生『政治・経済』（選択科目：2単位）>

|        |                                     |
|--------|-------------------------------------|
| 4月     | 【新聞についての学習】                         |
| 4月～5月  | 【新聞ワークシート学習】                        |
| 5月～7月  | 【新聞スクラップ学習】                         |
| 7月～8月  | 【『第4回 いっしょに読もう！新聞コンクール』（日本新聞協会）に応募】 |
| 9月～10月 | 【新聞スクラップ学習】                         |
| 11月～1月 | 【新聞制作】                              |

## 2. 新聞の置き場所と整理の方法

教員、生徒が自由に閲覧できるように、多目的室後部に新聞社ごとに積み置きした。保管スペースの都合上、時間が経ったものは図書館にて保管した。もう少し整理をして、生徒や教職員がもっと活用しやすいようにしておく必要があったと感じている。

| 新聞名  | 配達月 |     |     |     |    |    |    |
|------|-----|-----|-----|-----|----|----|----|
|      | 9月  | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
| 朝日新聞 | ○   | ○   |     |     |    |    |    |
| 毎日新聞 | ○   | ○   |     |     |    |    |    |
| 読売新聞 |     |     | ○   | ○   |    |    |    |
| 日経新聞 |     |     | ○   | ○   |    |    |    |
| 東京新聞 |     |     |     |     | ○  | ○  |    |
| 上毛新聞 |     |     |     |     | ○  | ○  |    |
| 産経新聞 |     |     |     |     |    | ○  | ○  |



### 3. 実践の内容

#### 【2年生『現代社会』（必修科目：3単位）】

##### （1）ニュース&スピーチ（4月～12月）

- ①発表者は授業の前日までに発表する記事を作り（台紙に新聞紙名・日にち・朝刊 or 夕刊・掲載ページを記入）、担当教諭に提出する。
  - ②発表者は前日までに準備した記事を配布し、授業の冒頭を使って、気になるニュースを発表する。
  - ③発表を聞いている人はそのニュースについての感想や意見をコメントする（抽選で決定）。
- ※②～③で10分程度。毎時間の授業で実践した。

#### 【3年生『政治・経済』（選択科目：2単位）】

##### （1）新聞についての学習（4月）

- ①新聞の構成、見出しのつけ方、記事の書かれ方などを学習。

##### （2）新聞ワークシート学習（4月～5月）

- ①読売新聞発行の「読売ワークシート通信」を活用して、新聞記事を読み、重要事項を読み取り、自分の意見等を記入する。

##### （3）新聞スクラップ学習（5月～7月、9月～10月）

- ①自分で興味のある記事を探し、ノートに貼る。
- ②出典を明記し、記事を簡潔（2～3行）に要約する。
- ③記事についての感想や意見を書く。



<生徒がまとめたノート>

##### （4）『第4回 いっしょに読もう！新聞コンクール』（日本新聞協会）に応募（7月～8月）

- ①記事を決め、感想を書く。
- ②家族や友達に意見を聞く。
- ③自分の意見や家族、友達のことを総合してまとめる。

(5) 新聞制作 (11月～1月)

- ①班編成、編集長の選定、新聞のテーマ設定
- ②担当記者の決定 (政治、経済、社会、スポーツ、国際、社説、広告などから担当を話し合って決定)
- ③各自で記事 (ネタ) 集め →記事作り
- ④編集会議 (レイアウトの決定) →編集作業 →印刷
- ⑤新聞制作発表会
  - i) 新聞展示 (各班の新聞を3分ずつ見て、デザイン性やテーマ性、工夫の様子を評価する)
  - ii) 新聞発表 (各班5分程度で、新聞制作を通して感じたことや力を入れたところなどを発表する)
  - iii) 評価、講評記入 (それぞれの班の発表の様子を評価し、講評をワークシートに記入する)



<生徒の作品>



<新聞制作発表会の様子>

☆ 新聞制作にあたり工夫したところ (生徒の講評、感想より抜粋)

- ・記事の量を必要最小限にとどめ、見やすくするために文字を大きくした。
- ・見出しのフォントの大きさや色を変え、メリハリがつくようにした。
- ・記事の内容に合う写真やイラストを載せて、ひと目で内容がわかり、興味を持ってもらえるようにした。

☆新聞制作で苦労したところ（生徒の講評、感想より抜粋）

- ・記事を見つけるのに苦労した。
- ・レイアウトの余白や文字の大きさを考えながら、その範囲に要点をまとめることが難しかった。
- ・見やすいデザインにするために、写真の配置や文字数の調整が大変だった。

#### 4. 実践の感想と生徒の課題（生徒の感想から抜粋）

##### ①身近になった新聞

- ・テレビやインターネット、SNS等の方が便利だと思っていたが、新聞で情報を知るのもとても良いと思った。
- ・新聞作りでとまどうこともあったが、今まで新聞を見る機会があまりなかったので、この授業を通して少し新聞に興味を持つことができた。新聞は難しいというイメージがあったが、そうではないということがわかった。
- ・新聞は良い記事、悪い記事というだけでなく、地域にも目を向けていたり、小さな記事でも個人にとっては大きな事だったりする。そういう新聞の良さも知れて良かった。
- ・普段は読まない記事には大切なことやためになることも書かれていることがわかったので、これからは新聞を読んでいこうと思った。
- ・今まで新聞を読む機会が少なく、関心もあまりなかったが、ニュース&スピーチを通してもっと色々な情報を知りたいと思えるようになった。

##### ②新聞の利点

- ・新聞を読むことで、難しい漢字を読めるようになり、本などを読むペースも速くなっていった。
- ・「伝える」ということには色々な方法があるが、その中のひとつとして、文字にして新聞として「伝える」ということを学んだ。
- ・新聞を読んだり、情報をまとめることで、私たちの身の周りで起こっている問題を考え直すきっかけになり、現在の社会情勢について深く考えることができた。

##### ③授業の成果

- ・情報を言葉でうまく伝えることは難しいと感じた。
- ・新聞を読むことの大切さを知った。特にスクラップ学習（新聞切り抜き）は、その話題について自分自身が深く考えられるきっかけになったので良かった。
- ・ただ情報を載せるだけでなく、写真やイラスト、地図などを入れることで全体の印象が変わり、配置を工夫することで見やすくなる。伝えるためには「見せ方」も重要だということを知った。
- ・新聞を要約することで、伝えたいことをまとめる力がついたと思う。また、自分の感想や意見を書いていくことで、感情表現が豊になった気がする。
- ・グループでの新聞制作は、多数の意見やアイデアを出し班員と協力することで、一人で作るより深みのあるものができたと思う。



# 2013（平成25）年度 群馬法科ビジネス専門学校NIE実践報告書

群馬法科ビジネス専門学校 岡村 佳明

## 1 実践の概要

本学における専門学校としての中心的な目標は学生が希望する公務員の採用試験に合格するよう導くということです。

NIE 実践校に加えていただき活動するに当たって、まず考えたことは、きわめて実利的な目標として、公務員試験の合格に資するような新聞の活用法を考えるということでした。もとより、公務員試験においては多岐にわたる「科目」より出題されるのが特色となっております。例えば、高卒レベルの公務員試験においても、高校の普通科で履修する基本科目のほぼすべてから出題されます。わけでも「政治経済」あるいは「現代社会」の分野からの出題が多く、重点科目の一つとなっております。それに関連して「時事問題」としての出題も多くみられます。さらに面接試験(多くは2次試験で実施)においても質問事項として「社会で生起しているさまざまな問題に関して、どのようなことに関心があるか」ということが多く出されます。

本学では従来から「時事問題」という科目を設定して、日々のニュースからテーマを抽出し、授業でそれぞれのテーマについて、その内容の解説、意見交換などを行ってきました。これは今後も継続していく予定です。今回のNIEの授業においては、「時事問題」の授業に屋上屋を架す結果となることを避けるため、報道内容に迫り、論点をより明確化することによって、日頃の政治経済を中心とした学習活動にも役立てていこうと考えました。

購読した新聞は、上毛、日本経済、朝日、読売、毎日、産経、東京新聞です。特に授業として重視したのは、同一のテーマを扱った記事であっても、客観的な事実報道とはいうものの、結果として提供される記事内容はかなり異なったものになっているという点です。

国民として、さまざまな事象についての的確な意見や考えを持ち、主体的に意思決定し、行動することによって国民主権制度をうまく機能させていくためには、それにふさわしい識見が必要になります。そのような識見を養い育てるためには、情報を十分に収集するとともに、それらの情報を的確に評価していくことが不可欠です。その際、新聞は重要な情報源であるといえます。授業の際も強調しましたが、容易に情報を得る手段としてテレビなどの電波媒体がありますが、新聞の方が圧倒的に情報量は多く、国民が依拠すべき情報源としては依然として重要な手段と考えられます。そして何よりも大切なことは読者として、それらの記事を客観的あるいは批判的に読みこなし自分

なりの意見、考えを持つことです。

そこでまず、さまざまな新聞報道に接する中で適切な判断をしていくために前提となるのは十分な客観的知識であると狙いを定めて、教室では特定のテーマごとにそれら必要とされる知識を確認していくという作業を中心に行っていました。

そして結果としてそこで問題となる知識が公務員試験の「政治経済」や「時事問題」といった科目においても重要なものとなるように授業を組み立てるように心がけました。

## 2 実践の具体例

### 「集団的自衛権に関する報道を材料として」

集団的自衛権については特に政治の世界において議論を呼んでいます、国民としても正確な情報と的確な判断が必要となります。特に憲法にまつわる議論が多くみられるため本学の学生にとっても有用な学習テーマになりうると考え授業で扱うこととしました。

まず、集団的自衛権に関する報道においては各新聞によって（社説と異なる客観的事実の報道の形をとっていても）社の主張に沿ったかたちで報道するため、その内容に差異が生じてくるということが看取されました。例えば、集団的自衛権に関する国会での審議内容からどの部分を探りあげて紙面に載せるかということにその社の方針が如実に表れています。

次に、特に国会での議論に関する報道の中から学生の学習に資すると思われた憲法的論点を含むものについて、新聞の切り抜きを含むプリントを作成、配布して授業を進めました。以下、授業の展開の様態を記します。

- ① 議論の出発点として、そもそも集団的自衛権の基本的概念を周知するよう基本的内容(各種事典類において共通して記述のあるもの)を記載したプリントを配布し、確認し合いました。それによって集団的自衛権と国連憲章、憲法9条との関係も浮かび上がってきます。
- ② 次に、新聞記事によると、政府が集団的自衛権を認めるにあたって、「解釈改憲」を進めようとしていると批判しているものがあります。ここで「解釈改憲」の意味が問題になります。そもそも「解釈改憲」という用語は法学上の用語として通用しているものではなく、正式な憲法改正手続きとの対比で使われていることが推察できます。そこで、憲法の改正に関する憲法規定(96条)により、憲法改正の概念と改正手続きを確認します。

その際、事前に憲法の条文を配布しておき、関係する条文を学生に探させ、確認するようにします。日頃の「政治経済」の学習においても憲

法の条文を自ら確認し、憲法上の規定がどのようになっているのかということを確認し、十分理解したうえで記憶させるようにしています。

- ③ 次にいわゆる「解釈改憲」に問題があるとするならば、憲法9条との関係で集団的自衛権の行使を認めるためには憲法改正が必要か否かということが問題となります。そこで改めて憲法9条を確認します。

9条は憲法全条文の中でも最も触れられることの多い条文の一つです。しかし、実際に条文にあたってみると、それは条文構成が複雑なこともあり、解釈するのにかなり難渋することになります。したがって専門の学者の中でも解釈は分かれ、当然、学生にとっても、その意味するところを一義的にとらえるのは難しいものがあります。それだけに新聞記事の中で9条にかかわる問題に関しては自分なりの9条に関する確実な視点がないと判断がつけにくいということになります。少なくとも学生は9条を読む限り、集団的自衛権の行使を9条が認めているか否かについて条文のみからは明白な結論を出すことが難しいことに気づきます。

そもそも本学学生が多く受験する自衛隊に関しても、かつては9条をめぐって違憲論が多くみられ、それが現在はかなり減少しているようにみられます。「新しい人権」の概念も憲法制定後、社会の情勢変化に応じて新たに考えられるようになった人権といえます。このように、憲法規定はその抽象性も手伝って、その解釈が社会の影響を受けて変わり得るという難しさがあります。

- ④ さらに憲法解釈によって集団的自衛権の行使を認めるのは「立憲主義」に反するという主張を紹介した記事が多くみられました。ここでも「立憲主義」という用語の確認から入ります。「立憲主義」＝「憲法に基づいて政治を行おうとする原理」、さらにその内容とする「権力分立」、「基本的人権の保障」、「法治主義」などという概念を補ってもそれらの主張の当否は判断しにくいものがあります。結局そこには、9条から具体的政策問題について、どこまで結論を導けるかという問題があるように見えます。
- ⑤ また、記事では内閣法制局を「憲法の番人」と位置づけ、政府の方針はこれまでの内閣法制局の見解に反していることを問題視しているものがありました。まず「憲法の番人」ということばは通常、裁判所について使われる言葉です。その根拠はどこにあるか。憲法の条文から違憲立法審査権について規定した第81条を確認させます。一方、内閣法制局については配布したプリントから、内閣との関係を確認します。それによれば、「内閣法制局は内閣の事務を助けるため内閣に設置する」と

あります。少なくとも内閣を中心とする行政機関による立法行為や処分に対して外部から権限を持って違憲判断などをするという関係にはないということが確認できます。記事による批判は、集団的自衛権のような重要問題について、これまでの法制局ひいては内閣自体の解釈と異なる判断をしていることへの批判と考えられます。

### 3 実践の感想と今後の課題

上述のように新聞記事の内容を的確に理解するのはそれなりの知識が必要であり、記事によっては、議論の余地がないように書かれているものであっても客観的知識に基づいて改めて考察すると、必ずしも自明とは言えないことも多いことが分かります。授業ではそのように判断できるだけの確実な知識を身に付け、また自分なりに調べることの大切さが強調されました。またこのことが、当面の目標である公務員試験合格にも結びつくもとであることも強調されました。また、国の仕組みや制度に関して学ぶ場合、憲法の条文を確認することの重要性も改めて学ぶことができました。

今後も、「時事問題」の授業においてはできるだけ多くの話題をタイムリーに取り上げ、時事問題に関する確実な知識を身に付けていこうと考えています。それに対して NIE の授業を通じては、自ら新聞報道に接して自ら適正に判断できるように指導していきたいと考えています。

#### その他の学習項目

- ・アベノミクスについて（「政治経済」の経済の学習に有効）
- ・領土問題(中国や韓国の言う「歴史」とは何か。公務員試験に出題される「歴史」を学ぶために役立つ)
- ・地元自治体の政策課題（日頃の地元に関する記事から、解決すべき問題を拾い上げる。公務員試験を受ける際の志望動機、公務員になって何をやりたいかということ述べるのに役立つ)





# 保育士養成校におけるNIE実践 社会を支える保育者に必要な基礎的知識を養うために

大泉保育福祉専門学校 保育科主任講師 林 恵

## 1. 実践の概要

本校の保育科は保育士、幼稚園教諭を養成し、卒業後はほとんどの学生が、保育所や児童福祉施設へ就職をする。入学生は4分の3が高校卒業後、4分の1ほどが社会人等を経て本校に入学した学生であり、入学時は学習への取り組みの姿勢や基礎学力にも幅があるのが現状である。しかしながら保育に係る事象への関心は非常に高く、より深く学ぼうとする強い意欲をもった学生も多く、学年を重ねるにつれ、活発かつ専門性の高い意見交換が行われるようになってくる。

子どもに関する社会的事象は常に変化し、テキストの内容では不十分なことが多い。そのため本校ではNIE実践指定校になる以前から、各教科で必要に応じて新聞を使った授業を展開していた。例えば、子どもに関する新しい施策の紹介や、児童虐待、障害児の保育実践の記事等である。

実践指定校となった今年度は主に、保育科I部1年「文章表現」と保育科I部1、2年、II部2年の「教育原理」の授業に重点を置き、基礎的な文章読解力を身につけ、社会への関心をもつことと、新聞を通して保育や教育の現状と課題を知り、考察する力をつけることを目的にNIE実践に取り組むこととした。

## 2. 新聞の置き場所と整理の方法

### (1) 場所

学生が歓談をしたり昼食をとったりする場所である学生ホール(図1)に保管場所を設置した。

### (2) 管理

スチールラックを設置し、配達された新聞を事務室職員が、当日分上段に、昨日分はその下の棚へ置いた。新聞社別に分けて保管し1か月ごとに廃棄した(図2)。また、表をマグネットで示し、どこの新聞社の新聞が配達されているかがわかるよう掲示した。学生は自由に読むことができ、

一番上に切り抜き用のマットとカッターを設置し、当日分以外は切り抜きなどもしてよいこととした。切り抜いた残りも畳んで元の位置に戻すよう指示した。

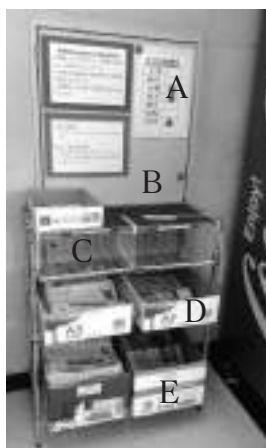


図2.新聞ラック



図1. 学生ホール

A:配達される新聞社  
B:切り抜き用品  
C:当日分 D:昨日分  
E:過去分

## 3. 実践の内容

### (1) 文章表現【保育科I部1年生対象・後期】

文章表現は、保育者として必要な文章の表現(例えば、保育に関する記録の方法や保護者との文書のやり取りにおける表現など)を学ぶ教養科目である。

#### ①「私の選んだ新聞記事」(図3)

保育や福祉に関係した興味のある記事を切り抜き、重要だと思



図3.「私の選んだ新聞記事」  
A:記事の添付 B:概要 C:コメント

うところに蛍光ペンで印をつける。所定の用紙に貼り、概要を200字にまとめ、保育者としての観点からコメントを200字でつける。毎回授業の最後に15分ほどの時間を使い、各自探してきた記事を使って作成、その週のうちの提出をルールとした。



図4.まとめ作成風景



図5.グループでの新聞記事のまとめ

②「グループでの新聞記事のまとめ」(図4.5) ①でのレポートを参考にグ

ループでテーマを決め、興味のある記事に解説を加えたものを模造紙にまとめた。

(2) 教育原理【保育科I部1年2年、II部2年・後期】

教育原理は教育に関する基本的概念、実践原理を体系的に理解するための科目であり、現在の様々な幼児教育の課題について取り上げ授業内で検討している。

① 大泉の多文化保育

大泉町の多文化保育について、導入に読売新聞「Nippon 蘇れ 吸収 3 サンバの街歓迎と困惑」(2013.8.20)を使用。

② 世論と保育所を利用する母親の気持ち

保護者を支援する保育者として、働く母の気持ちをどのように受け止め支えていくべきか。話題となった曾野綾子氏の「出産したらお辞めなさい」(週刊現代 2013.8.31号)を読んだうえで、朝日新聞「論壇 辞表 働く母の権利 甘えているわけじゃない」(2013.9.30)を読み、保育者としての考えをクラス内で検討し、現在の保護者支援の考え方についてまとめた。



図6.「どうする6・3・3制」授業風景

③ 学制の改革6・3・3制から4・4・4制へ(図6.表1)

「どうする6・3・3制」と題し、教育再生実行会議で検討されている学制変更の記事を取り上げ、就学年齢の引き下げについて意見交換を行い、就学前の教育の在り方について検討をおこなった。また、保育科I部2年生のクラスにて、この授業内容で公開授業を実施した。

表1. 「どうする6・3・3制」授業の流れ(略案)

|              | 授業の内容と資料   |
|--------------|--|
| 現在の学制と問題(導入) | 様々な保育・教育方法の振り返り 現在の学制の確認<br>教育再生実行会議による現行の学生の見直し検討について<br>記事1.朝日新聞(2014.2.8)スクリーン「耕論6・3・3でいいの」<br>記事2.読売新聞(2013.10.26)配布資料「義務教育5歳から検討」 記事を読んでプリントに確認事項を記入する。   |
| 他国の状況(展開1)   | 他の国の教育制度について知る。<br>記事1.朝日新聞(2014.2.8)スクリーン「各国の学制」<br>記事3.読売新聞(2013.11.9)配布資料「変わるか6・3・3制」イギリスの例<br>記事を読んでプリントに確認事項を記入する。  |
| グループワーク(展開2) | 就学年齢の引き下げについての賛否を問う 意見を基にグループを作り、メリットについてまとめ、発表する。<br>考えの広がりをもてるよう記事を提示<br>記事4.読売新聞(2013.10.11)配布資料「子どもの貧困4」経済格差の視点<br>記事5.上毛新聞(2013.10.19)配布資料「教育、文化に切実な声」<br>記事6.上毛新聞(2013.10.19)配布資料「まず日本語力」多文化の問題の視点 |
| 実施するならば(まとめ) | 全体のまとめ 実施するならばどのようなことが必要となってくるか<br>記事7.読売新聞(2014.2.8)スクリーン「6・3・3制維持」円グラフ 文部科学省資料 スクリーン<br>今保育士として意識すべきことは何かをまとめる   |

#### 4. 学生の意識の変化と今後の課題

##### (1) 学生への実践前後のアンケートから

本校の保育科 I 部 1 年生に取り組みの前後にアンケートを実施した。取り組み前には新聞を読まないあるいはほとんど読まない学生が 60%をしめ、全体を通して読む学生は皆無であった。半数以上が内容が難しくわからないところが多いと思っており、スマートフォンやテレビの情報で十分だと感じている学生も多かった。授業終了後に実施したアンケートでは新聞を読まない学生は 26%ほどに減少し、読む際には、全体、おおよそ全体を通して読む学生が 89%と増加した。内容の理解についても 73%がわかる、おおよそわかると答えている(表 2)。実践前の自由記述の欄には、新聞の利点を挙げる一方で難しいというイメージを述べる記述が目立った。実践後には苦心しながらも課題に取り組んだ結果、幅広い記事に関心を寄せるようになったことや、記事についての議論発表を重ねることで、社会の問題を自分のこととしてとらえることができるとの記述も見られた。実践前には「新聞を見る」と記述していた学生も多数いたが、実践後には「新聞を読む」という表現に変化していた。

##### 実践前の自由記述

- ・バーンと全体を見て興味があったものを見ます。特に見るのはトップ記事。
- ・難しい文章、きちんとした文章、漢字が多く使われているが、字が細かくて読む気が起きない。
- ・一つの言葉がわからないと読む気をなくしてしまう。チラシはたいていチェックしている。
- ・一日の出来事などが書いてあって便利だが、難しいイメージ。・地元の話を見る。
- ・多種多様な記事があるので、そんな人でも必ず一つは気になる記事がありそう。・事件などニュースで見たところを新聞でも見る。
- ・すべての意見が一度に見られるネットを見て新聞を読まなくなる。
- ・テレビとか携帯で十分。新聞だと文字が多すぎて読むのが大変。・新聞はインターネットニュースなどに比べ、情報の速度が遅い。
- ・高校の時に天声人語を書いていくという作業をやったが、内容がとても頭に入ってきて、とても面白かった。それから新聞の天声人語の部分を読むようになった。・記者の文章構成力がすごいと思う。世の中の動きを知るのに役立つ。

##### 実践後の自由記述

###### 「私の選んだ新聞記事」について

- ・毎週の課題はかなり負担で面倒だった。でもやっていくうちに意識しているわけではないのに子どもに関する記事を見ると読むようになり、提出する記事もきちんと用意できるようになり、途中から楽しくなっていた。
- ・長い文章の記事を読んだ時に短い文章にまとめることが難しかった。

###### 「グループでの新聞記事まとめ」や「どうする 633 制の議論」について

- ・高校でも NIE に取り組んだ。自分でまとめるだけではなく発表した方が、考えが深まると思う。発表の重要性を感じている。
- ・新聞を通して感じた自分だけの意見ではなく、他の人の意見を聞くことで視点を変えた見方ができ、深く考えられるようになった。
- ・一つの記事に対し様々な意見が出され、まとめるのは至難だったが、着目点や考え方の違いに気づき、どういったことが自分ができるかと考えられた。

###### 全体を通しての感想

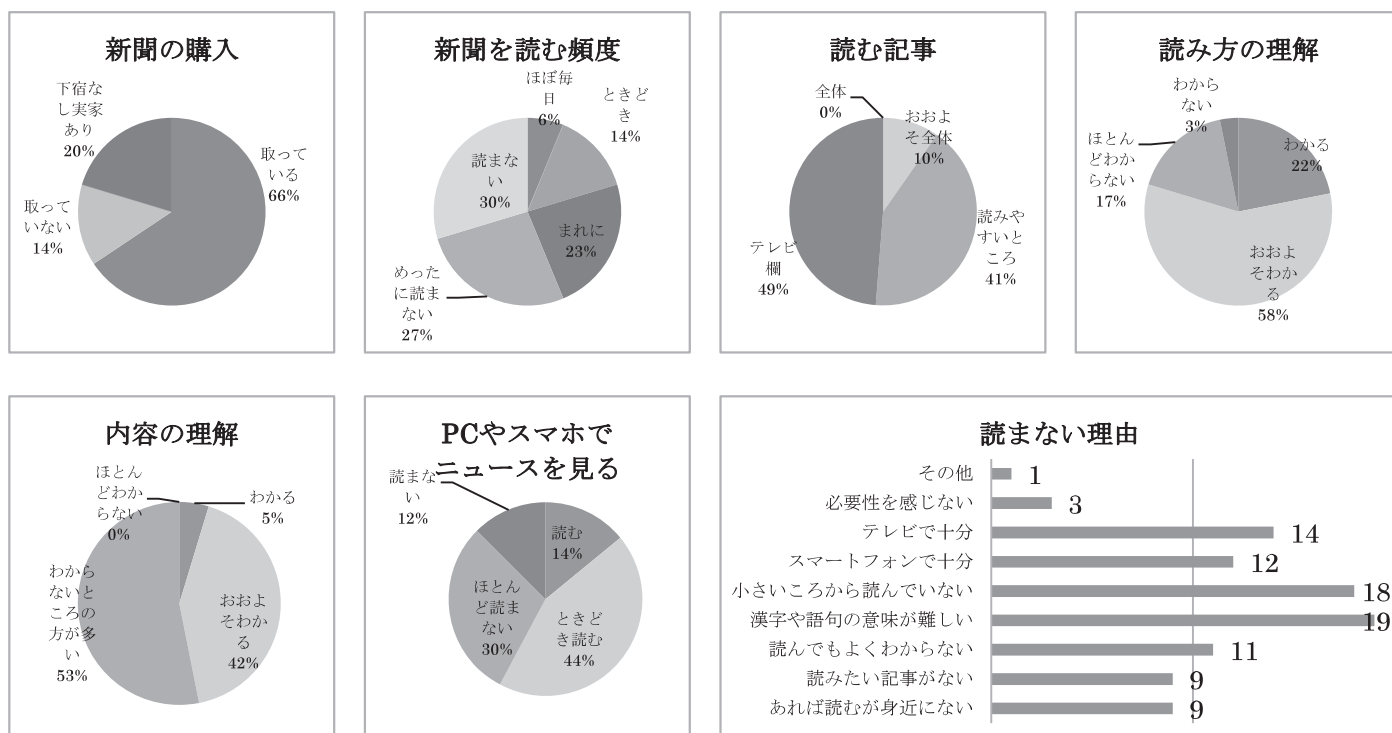
- ・あまり文章の読み書きが得意ではないので授業を受けたことにより、以前より読むスピードや読解力がついたのではないかな。
- ・新聞を全く読まなかったが、授業で読むようになったら中学高校で楽しいと思えなかった新聞に興味があると感じられるようになった。
- ・内容を完璧に理解するのは難しいが、知らなかったことや疑問点が浮かびもっと知りたいという意欲も感じられるようになった。
- ・新聞のすべての記事が難しいと勝手に考えていたが身近に興味深い記事も多く今までの印象が変わった。
- ・スマホ等の普及により紙の新聞を読む機会が減ったが、授業での機会を経て今まで見なかったような記事についても興味を持ち、課題とは別に興味のある記事を読むようになった。
- ・以前は子どもの養護や政治、事件事故など自分の関心のある記事を読んで社会の現状を知るだけだったが、授業を通して記者が伝えたことも自然に考えられるようになった。
- ・現代社会の実情を少しでも自分たちで理解しようとする意識が生まれたのではないかなと思う。自分の思っていることを文章にしたり言葉で表現したりする時間があるだけで、新聞を読む姿勢が変わってくるのではないかなと感じた。

##### (2) まとめと今後の課題

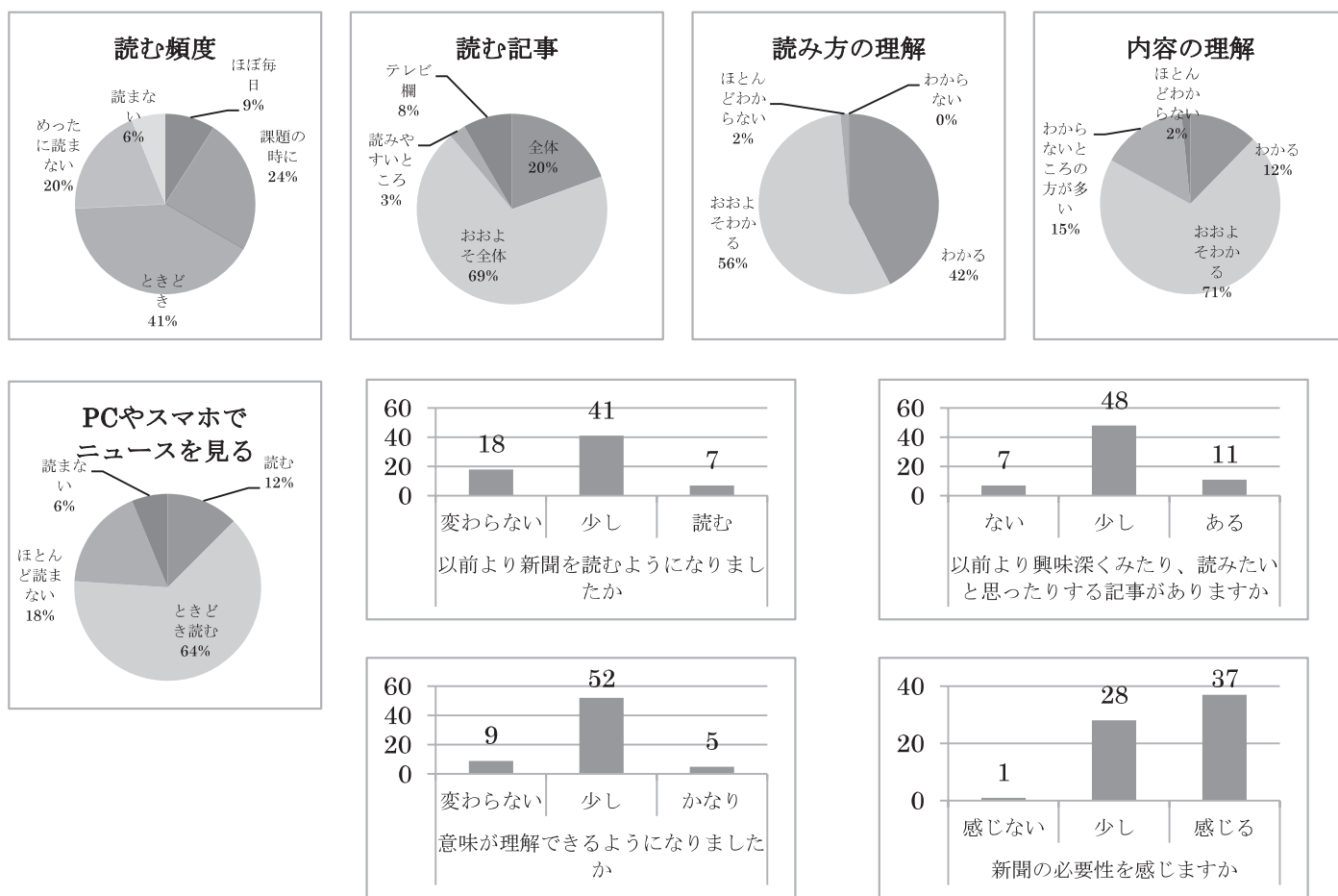
今回の取り組みの目的であった、基礎的な文章読解力を身につけ、社会への関心をもつことと、新聞を通して保育や教育の現状と課題を知り、考察する力をつけることの 2 点について一定の成果があったと考えてよいだろう。学生が感想で述べている通り、単に新聞を読む機会を与えるのではなく、その記事の内容を周囲と確認し、考えを表出し思考の過程を共有する時間を設定することが重要であることがわかる。国家資格取得のための専門教育課程にこのような時間を設定することは容易ではないが、高い専門性を身につけるための基礎を築く方法としては非常に有効であり、取り組みを継続することは大変に意義があるものだと考える。

表 2. 保育科 I 部 1 年生 新聞に対する意識の変化

保育科 I 部 1 年生 文章表現 教育原理 取り組み前 (n=64)



保育科 I 部 1 年生 文章表現 教育原理 取り組み後 (n=66)





2014年6月30日発行

---

2013（平成25）年度

## 群馬県N I E 実践報告書

編 集 群馬県N I E 推進協議会事務局  
発行者 群馬県N I E 推進協議会  
事務局 〒 371-8666 前橋市古市町 1-50-21  
上毛新聞社内  
電話 027-254-9923

---